

兵

庫

縣

委
先
開
設
地

兵
姬
尼

庫
路
崎

縣
市
市

(姫路市)

委囑先兵庫縣

施設概覽

開設地	會場	期	間	科目數	延時間數	生徒數	關係者數
姫路市	城南小學校			六	八	一五〇 一五〇 二三六	〇・九〇六 九
						申込者一許可者 終了者皆出席者終了歩合	講師事務取扱

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回数	時間數	備考
姫路市	十月三十日(火)	政治	兵庫縣社會教育課長 久尾啓一	一	一	
	十月三十日(火)	國民精神	姫路師範學校校長 苦瓜惠三郎	一	二	
	十一月二日(金)	園藝	縣立姫路高等女學校教諭 古屋清	一	二	
	十一月二日(金)	趣味及保健指導	兵庫縣社會教育主事補 西川嘉吉	三	三	
	十一月五日(月)	生活及職業指導	東洋紡績姫路工場長 松村拾一郎	一	二	
	十一月五日(月)	自然科學	姫路師範學校教諭 長島理夫	二	二	
	十一月七日(水)	國史	姫路高等學校教授 安藤俊雄	一	二	
	十一月九日(金)	時事解説	第八旅團長陸軍少將 矢野機	一	二	
十一月十二日(月)	同右	兵庫縣社會教育主事 鈴木録太郎	一	二		

年齡別調

開設地	生徒數	廿歲未滿	自廿一歲至廿五歲	自廿六歲至卅歲	自卅一歲至卅五歲	自卅六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至六十歲	六十歲以上	備考
姫路市	150 (100%)	57 (38%)	42 (28%)	25 (17%)	27 (18%)	7 (5%)	3 (2%)	—	—	—	備考

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校中途退學卒	尋常小學校卒	高等小學校卒	補習學校卒	中等學校中途退學卒	中等學校卒	專門學校中途退學卒	專門學校卒	備考
姫路市	150 (100%)	—	18 (12%)	28 (19%)	48 (32%)	8 (5%)	3 (2%)	8 (5%)	—	—	備考

職業別調

開設地	生徒數	業 業	業工屬金	具器械機製	業工學化	業工維織	業工紙	木甲骨革皮	品料食飲	題ノ身服被	業築建木土	刷印版製	樂娛藝學	業氣電斯瓦	業 績	業輸運通交	他 其	備考	
姫路市	150 (100%)	—	1 (0.7%)	3 (2%)	27 (18%)	36 (24%)	—	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	備考

一、本施設ノ準備狀況效果等ニ關スル事項

1. 印刷物

中堅勞務者教育講座趣旨、課目、要項書、市長案内狀

受講券並ニ日割表

其他

2. 募集

イ、姫路市長名ヲ以テ使用人數名以上ヲ有スル會社、工場、商店等百五十六箇所ニ案内狀ヲ趣旨、課目、要項書ト共ニ發送ス
ロ、人夫一名ヲ雇入レ三日間ニ涉リ使用人ヲ有スル商工業者ニ印刷物ヲ配付セシメ尙特ニ口頭ヲ以テ勸誘ヲナサシム

3. 會場

イ、姫路市立城南小學校講堂並ニ職員室ヲ使用ス
ロ、講堂ニハ職員用机三個、臺付三人用腰掛五十五個、電燈六十「ワット」二十二個、教壇、塗板、ピアノ、其他教授用具一切ヲ備ヘ且ツ喫煙所、湯呑場ヲ設ケ尙入口ニ上草履百六十足ヲ準備ス

4. 申込

申込期日ハ講習開始當日即チ十月三十日トシタルニ案内狀ヲ發送シタル百五十六ヶ所ノ内受講者ヲ出シタルモノ十九ヶ所ト其他ヨリノ者ヲ合シ申込者百五十名ナリ

5. 受講狀況並ニ效果

性別	生徒數	皆勤者	一回缺席者	二回缺席者	三回缺席者	四回缺席者	五回缺席者	中途退講者
計	150	123	18	6	4	3	6	—
男	109	73	17	6	4	3	6	—
女	41	33	1	—	—	—	—	—

終了者百三十六名ニ對スル皆勤者ノ歩合ハ八二・三%ニシテ其ノ良好ナル出席率ノ示ス如ク一般聽講者ハ眞面目且ツ最モ熱心ニ受講シ其效果モ至大ナルモノト認ム

二、講義ニ對スル質疑應答ノ内容、生徒ノ感想

- 一、質疑應答ノ内容何レモ正鵠ニシテ特ニ報告ヲ要スルモノナシ
- 二、生徒ノ感想左ノ如シ

東洋紡績姫路工場

中

本

龜

一

今回文部省兵庫縣姫路市主催ノ第六回勞務者講座ガ開催サレルニアタリ小生ソノ受講生ノ末席ヲ穢スノ光榮ニ浴シコ、ニ榮アル修了證書ヲ授與シ講師並ニ姫路市長ヨリハ御懇篤ナル御祝辭ヲ賜リ感慨無量ニ御座イマス、願ミマスルニ此講座間講師諸先生ノ御懇切ナル御指導

ハモトヨリ又直接間接ニ吾等受講生ノ爲ニ勞ヲ御執リ下サイマシタ御鴻恩ヲ思ヘバ萬感交々迫リ謝スル所以ノ道ヲ知ラザル者ニ御座イマス、想フニ文部省縣市ガ斯クモ吾等ノ爲ニ御盡力下サル所以ハ一ニ我等産業人ニ期待ヲオカケ下サルニ據ルニ外ナラズ一層其ノ責務ノ重且大ナルヲ痛感セザルヲ得ナイノデアリマス、今ヤ我が帝國ハ非常危局ニ直面シツ、アル今日産業戦線ニ活躍スル日本人トシテノ産業人タル我々ハ此ノ産業ヲ通ジテ日本國民ノ意氣ト誠意トヲ海外ニ宣揚シ東洋否世界ノ盟主タルノ實ヲ揚ゲ世界平和ノ礎トナランコソ我等ノ義務デアリマス、抑々國防ハ軍備ト經濟ノ圓滿ナル發展協調ニ據ツテ始メテ完全ヲ期スル時ソノ經濟ノ中樞ヲナス産業ノ發展コソ非常時日本ノ急務ナラン、コレ小生ノ今回ノ勞務者講座ニ據リ得タル認識デアリ此ノ講座ノ意義ヲシテ益々意義アラシムル爲本分ニ邁進スル覺悟ニ御座イマス、幕末ノ先覺者佐久間象山云ヘリ「余二十以後即チ知ルル夫モ一國ニ繫リアルヲ」コレ彼ガ立志ノ動機トナリタルヲ思フ時小生今回ノ講座ニ據リ日本人トシテノ産業人タル自分ヲ自覺シ得タルハコレ即チ一國ニ繫リアルヲ知リ得タルナリ、此處ニ於テ余佐久間象山ト立志ヲ一ニスルヲ得タルナラント愉快ニ堪エザル者ニ御座イマス、勿論象山ノ眞似ハ出来得ナクトモ其ノ意氣ニ於テ余佐ラズ奮然今其ノ第一歩ヲ踏ミ出シタル處ニ御座イマス、講師諸先生コノ一受講生ノ意氣ヲ見テ下サイ、コ、ニ一言所感ヲ述ベ主催者並ニ講師諸先生ノ御清福ト御健康ヲ御祈リ致シマシテ御禮ニ換ヘル次第ニ御座イマス

東洋紡績路工場 板谷文吉

私ハ勞務者講習會ガ開カレト閉キ跳立ツ思イデ申込サセテ頂キ出席サセテ頂イタ其一人デアリマス、今回四度ビ名講師ノ熱辯ヲ傾聴シ思ヒ當ルコトガ多クアリマシタ、諸先生ノ御講義ハ親ガ子ニ教ヘル様ニ無學ノ私ニモヨク解ル様ニ親切ニ御指導下サレ深ク御禮申上マス今非常時ノ任務擔フ我等青年ハトモスレバ醉ムニアリ勝テ思ヒマス、講習會ヲ年ニ數回トナク開催シテ頂イテ衰トスル青年ノ心ニムチ打ツテ頂キタイノ御座イマス、慾ヲ申上ダレバ講義ノ内ニ物理、化學、職業指導ノ直接我等工業勞務者ニ必要ノ科目ノ時間ヲ長クシテ頂キ一般青年ニ及ボシテ頂キタイノ御座イマス

同 田路一夫

熱望シテ居タ中堅勞務者講座ニ今回初メテ受講出来タノ何ヨリ嬉シク思フ何回モアツタ講座モ工場ノ都合デ行ク事ガ出来ナカッタ、從ツテ講座ガドシナモノデアルカスラモ知レナカッタ、諸先生ハソレノ受持科目ニツイテ熱心ニソシテ懇切ニ分リヨク教ヘ下サイマシタ事ハ只感謝ノ外アリマセン、其感謝ヲ有意義ニ生カサスコソ我等ノ務メデナケレバナリマセン、割當テラレタ科目ハ何レモ必要ナ事バカリデ我々無學ノ者ニトツテ又未熟ナモノニトツテ何時デモ教エラレル事ノ出来得ナイ事バカリデシタ、只残念ニ思フハ時間ノ少イ事デス、ドノ科目モ「コレダケ教ヘテ頂ケバ十分デス」ト云ハレナイモツト、時間ヲ増シテ二週間デモ三週間デモモヤツテ頂キタイ、今度ノ講座ガ一日モ早く再開セラレン事ヲ願ツテ居リマス

同 大迫みづよ

先生私ハ姫路東洋紡績ニ勤メサセテ戴イテキル一女工デ御座イマスガ此度姫路市ニ於テ第六回中堅勞務者講座ガ開カレマシタ事ハ私共勞務者ニトリマシテハ非常ニ心カラ嬉シク思ヒマス、私ハ長年姫路工場ニ勤メサセテイタマイテキマスガ今年始メテ講座ニ出席サセテイタマイタノデゴザイマス、コウシタ諸先生ノ方カラ尊イ御教訓ヲ戴イテ只自分ハ涙スルノミデゴザイマス、今迄自分ノ過去ヲカヘリ見マス時自分ハドウシタ心掛デ生活シテ來タノガ只自分ノ生活ガ良ナレバト云フ心バカリデ只人様ニ心配バカリカケテ居タ自分デシタ、考ヘテ見ルトツマラナイ淺果ナ考ヘ方デゴザイマシタ、本當ニ二十幾年ト云フ月日ハ夢ノ間ニ過ギテシマイマシタ、今迄ノ自分ノツマラナイ生活ヲ過ゴシタ事ガ今更ラ残念デナリマセン、私ハ鹿島ノ田舎ニ育テラレタ者デゴザイマシテ本當ニ世間ト云フコトヲ知ラナカッタ者デゴザイマシテコウシタ諸先生ノ尊イ御話ヲ承ツテ初メテ氣ガツタ位デス、コウシタ立派ナ講座ニ出席サセテイタマイタ私ハ何ト云フ幸福デゴザイマセウ、屹度神様ガ善イ人間ニシテヤル爲ニオ導キ下サイマシタノデセウ、ソウ思フ時一層私ハ嬉シクテ只感謝ノ涙デ何ニモ言フ事モ出来マセン、コウシタ先生ノ尊イ御話ヲ承ツテ其中ノ何カ一ツデモ實行サセテ戴キ國家ノ爲ニ盡サセテイタマイタキタイト希望シテ止ミマセン、一人デモ多クコウシタ立派ナ御教訓ヲ受ケテ下サツタラト常ニ愚カナガラキ思ツテキルノデゴザイマス、故郷ニハ老ヒタル父母ガ私ノヤウナ愚カナ者ヲデモシツカリトシタ修養ヲシテ歸ツテ呉レル様ニト神ニ祈ツテ待ツテキテ呉レル事ダトモ思ヒマス、此事ヲ父母ニ知ラレタラ屹度父母、喜コンデ下サルダラウト思フノデゴザイマス、ドウゾ先生愚カナ私ヲ今後共ヨリ一層御指導下サイマス様ニオ願ヒイタシマス、先生ツマラナイ事バカリ申上ゲテ濟ミマセン、紙上ヲ持ツテ最後ニ諸先生ノ御健康ト御幸福ヲオ祈リ致シマス

同 森本はや

木枯吹キスサプ十月三十日ヨリ十一月十二日迄ノ六日間城南小學校ニ於テ姫路市第六回中堅勞務者講座ガ開催サレマシテ及バズ乍ラ出席サシテ戴イタノデゴザイマス、國ヲ出テヨリ四ヶ年ノ長イ年月當姫路工場ノ一女工手トシテ勤メテ居リマスガコンナ尊イ講座ニ出席サシテ戴イタノハ此ノ度始メテゴザイマシタ、諸先生方ガオ忙シイオ體ニモ拘ラズ私達ノ爲ニオ出デ下サイマシテ御熱誠ナル尊イ御話ヲシテ頂キ誠ニアリガタウゴザイマシタ、全ク感謝ニ堪エヌ次第デゴザイマス、諸先生ノ御熱心ナル御話ヲ仰ギ見ル時全ク疲レテ忘レテ時間ノ経ツノモ知ラヌ位デシタ、短イ六日間デシタガ諸先生ノ御眞剣ナ一言々々私等ノ心ヲ強ク、サセラレマシタ、マシテ農家育チノ私達ニハ園藝ガ特ニ趣味ガゴザイマシタ、非常時ニ關スル時事解説、國史、日本精神等私等ノ心ガ引キメラレマシタ、來年ノ講座ヨリ此ノ様ナ科目ヲ澤山ニシテ頂ク様ニ希望スルノデス、幸ニ私等ノ出席スル日ニ限リヨイオ天氣許リデアツタノデホントウニ都合ガヨク皆勤出來テアノ立派ナ終了證書ヲ頂ク事ガ出來タノモ皆當工場ノ御又神佛ノオ惠ミト心カラオ喜ビシテ居マス、姫路ノ地ニ居ナカッタ此ノ様ナ尊イ講座ニ出席スルコトハ到底出來得ナカッタデアラウト考ヘタ時嬉シクテナリマセンデシタ、コレヨリ講座アル毎ニ事情ノ許ス限り出席シテ非常時日本女性トシテ向上シテ行キタイト願フテ止ミマセン、簡單ラ一言述ベサシテ戴キマシタ、終リニ諸先生方ノ御健康ヲオ祈リシテ居リマス

私ハ本年行ハレシ講座ニ始メテ列席サセテ戴キ講座ノ趣旨ヲ知りマシタ、僅六日間ノ短日數デハアリマシタガ其間ニ色々心づく事ガゴザイマシタ、諸先生ガ色々御熱心ニ御教ヘ下サル事ハ私ニトツテハ皆耳新シキ事バカリデシタ、中デモ最モ私ノ趣味ニ適シタト思ヘタノハ園藝デシタ、大自然ノ土ニ親シム事ハ私ノ念願シテキル處デアリマス、姫路工場ノ學校デ家事ノ時先生ノお話下サツタ事等マジツテ居リマシテ大變參考ニナツタト思ツテ居リマス、其他ノ事ハ私ガ講座ニ出席セネバマダ知らズニ居ル事バカリデ大變爲ニナリマシタ、諸先生方ガコン／＼トワカリ安クカミクダキテお教ヘ下サツタ事ハ唯々感謝ノ外ハアリマセン、承レバ講座ハ本年ニテ最早五六回モ致サレシ由コンナニ良キ講座ヲ何故今迄知らズニ過シテ來タノカト思ヘバ惜シク又残念ニ思ツテ居リマスガ本年ヨリハ講座ノアル度ニハ必ズ列席サセテ戴キタイト思ツテ居リマス、先生何モ知らナイ私デゴザイトス、今後共ヨロシクお導キ下サランコトヲ念ジテ止ミマセン、終リニ臨ミマシテ今後ハ中堅婦人勞務者講座ヲ御開キ下サラン事ヲ念願スルト共ニ諸先生ノ御健康ヲ祈リ致シマス

同 廣 澤 ハ ナ エ 叶 丸 つ ぎ 五

先日ハ中堅勞務者ノ爲ニ大變ヨイ講座ヲシカモ姫路ニお開キ下サレタト言フ事ハ私達一同非常ニ喜ンデ居ル次第デ御座居マス、私ハ此度始メテ此ノ講座ヲ受ケタノデゴザイマス、勞務者講座ト言フ本ハ三度讀ンダ事ハアリマス、デスクレドコンナ講座ガアルトハ此ノ度マデ知らナカツタノデ御座居マス、コンナヨイ講座ヲ受ケサシテ戴イタト言フ事ハ誰レノお蔭デセウ、皆先生達ノお蔭ダト厚ク／＼感謝致シテオリマス、現在我國ハ内ニ外ニ非常ナル困難ニ當ツテオリマス、此ノ困難ヲ救フノハ誰レデセウカ、私達モ同ジ日本國民ノ一員トシテ此ノ國ヲ背負ツテ起ツ覺悟ガナケレバナラナイト言フ事ヲ深く感ジマシタ、又自然化學ノ實驗モタゞ口デア、ダ、コウダト言ツタバカリデハ、ワカルモノデアアリマセン、實際コウシタ實驗ヲモ見セテ戴イタト言フ事ハ大變ヨイ事ト存ジテオリマス、コレカラ先ハ私モ勞務者講座ノ一員トシテ、又コウシタ講座ガアルマデ勞務者講座ノ本ニヨツテ進マシテ戴キマス、又ノ講座ヲ榮シミニテ働ラカセテ戴キマス

同 梶 師 し ま 子

昭和九年十月三十日カラ私達、爲ニ中堅勞務者講座お開キ下サイマシタ事私ハ本當ニ感謝サセテ戴キマシタ、此ノ六日間ノ間ニ非常時ニ感ズル話ヤ又國家社會ノお話ヲ聞イタ私ハ感謝ニタヘマセン、此ノお話ヲ聞イタ私ハジツトシテ居ルコトガ出來マセン、今迄私ハ何ヲシテ暮シテイタ事デセウ、今振返ツテ見ルト恥カシクナツテ參リマシタ、諸先生ノお話ヲ聞イタカラハ少シデモ國家ノ爲ニ働キマス働カズニハ居ラレマセン、キツト／＼働キマス、私ハ工場ニ勤メテ居リマスノデ國家ノ爲ニ働ク事ガ出來マス私ハコレイジヨウニ努力致シマス諸先生ノお蔭デ國家ノ事モ社會ノ事モ解リマシタ、何モ知らナカツタ私デアリマシタ、先生有難ウ御座イマシタ厚ク／＼御禮申上マス、終リノ日ハ修了證書送戴キマシタ、ソレニ又茶話會迄シテ下サイマシテ有難ウ御座イマシタ感謝致シテ居リマス、最後ニ先生ノ健康ヲお

断リ致シマス 合掌

同 磯 山 ま す 五

諸先生、菊ニ紅葉ノ秋トナリマシタ、此間ハ短日デ御座居マシタノニカ、ワラズ寒サノ中モワザ／＼お出デ下サイマシテ熱心ニ私達ノ爲ニお導キ下サイマシテ誠ニ有難ウ御座居マシタ、厚ク／＼御禮申上マス、私ハ講座ニハ初回デ御座居マシタ、大變ウレシク充分ニ修養サシテ戴キマシタ事ヲ感謝致シマス、中ニモ苦瓜先生ノ國民精神及長島先生ノ自然科學ハ私ニ取ツテ實ニ有益デ御座居マシタガ、少シ不満ニ感ジマシタノハ此ノ先生ノお話ノ時間ガ短イノガ私ニ取ツテ不満ニ感ジマシタ、明年ハ國民精神及自然科學ノ時間ヲ長クシテイタゞキタウ御座居マス、長島先生ノ理科ノ實驗モ明年ハモツト／＼タクサン拜見サセテ戴キタウ御座居マス、明年ノ講習ヲ榮シミニ諸先生方ノ御健康ヲ祈リ致シマス

三、懇談會討論會遠見學等ニ關スル報告

終了式後茶菓ヲ準備シ懇談會ヲ開催ス、兵庫縣社會教育主事補西川嘉吉氏ヨリ日本勞務者教育協會ノ件ニ付説明アリ、終ツテ生徒ノ所感發表等アリテ和氣瀟々裡ニ散會ス、生徒ノ所感發表ノ概要左ノ如シ

何レノ講座共誠ニ結構ナオ話バカリデ大變得ル處ガアリマシタ、然シ吾々ノ様ナ工場生活者ニハ今少シ自然科學ノ時間ヲ多クシテ頂キタイト思ヒマス、 日本毛織姫路工場 菅 原 庄 一

我々ノ様ナ工場生活者トシテハ本講座中ニ若干線ノ遠イ科目ガアリマシタ、現在ノ世界ノ動キヲ知ル事ノ出來ル時事ノ様ナ時間ヲ今少シ多クシテ頂イテ業務ニ追ハレテ居ル我々ニ幾分ナリ共現代ヲ認識サセテ頂キタイト思ヒマス、尙修養其他會合ヲ要スル場合又ハ書籍等ノ購讀ニ就テハ當局ヨリ先ヅ事業主ヲ動カシテ然ル後我々ニ及ブ様ニシテ頂イタナラバ其效果モ大デアリ安心シテソレニ從フ事ガ出來ルト信ジマス、 日本化學漆器株式会社 前 田 常 一

今迄ノ學校教育ヤ家庭教育ハ現在ノ我等ノ生活ニハ殆ンド役立たナイ様ニ考ヘテ居ツタガ今回ノ此講座ニ於テ始メテ實際生活ニ必要ナオ話ヲ承リ今後ハ諸先生ノ教ヲ守ツテ専心業務ニ努力スル覺悟デアル、 日ノ出紡績株式会社 原 田 日 出 雄

直接指導下サイマシタ講師先生ニ對シ感謝スル次第デアリマス、現在日本ハ非常時ニ直而セル時デ我々ノ様ナ産業青年ハ産業人トシテ専心勉勵シテ國家ニ報ユルノ誠ガナケレバナラナイト思ヒマス、之ニ關シテ本講座ハ大變有意義ナモノデ有形無形與ヘラレタ感化ハ大キイ、 東洋紡績姫路工場 中 本 爲 一

モノト思ヒマス、尙今後共御指導下サル様御祈り申上マス

木村正樹

自己、修養ハ自分デナスベキデ他力ニ依ル修養ハ役立タナイト思ヒマス、自分ノ信ズル書ニ依ツテ修養スルノガ至當デ他人カラ押ツケラレル書デ修養スル事ハ困難ト信ジマス、先ヅ自己ヲ完成シテ然ル後他人ニ及ボスベキデ此講座ノ益々有意義ナラシメタメニ協會ニ加入シテ修養シテ行クコトモ自分ガ信ジテコソ其效果モ大ナリト思ヒマス

四、本施設終了者ニ對スル輔導計畫ノ報告

本年度受講者ニシテ日本勞務者教育協會々員志望者多ク現在既ニ二十餘名ノ申込者アリ目下之レガ入會勸誘中ニシテ近ク之レガ支部ノ設置ヲ見ルニ至ラバ各會社工場大商店トノ連繫ト相俟ツテ本講座ノ效果ヲ一層大ナラシメントス

五、本施設ニ對スル會社工場管理者並ニ一般社會ヨリ感想批評ノ報告

受講者ヲ派遣ノ十九ヶ所ノ會社、工場、管理者ヘ感想批評ヲ照會シタルニ四ヶ所ヨリ回答アリ、其ノ全文左記ノ通り

東洋紡績株式會社姫路工場

公務御多端ノ折柄本年モ第六回勞務者教育講座御開催被下弊工場ヨリモ男子一五名女子三十九名聽講ノ機ヲ得誠ニ感誠ニ堪エザル處ニ有之厚ク御禮申上候御照會ノ管理者トシテノ感想ハ

一、勞務者ニ日本國民意識ヲ鮮明ナラシメ報國報恩ノ念ヲ一段ト深厚ニセシメタルコト

二、國民常識ノ涵養ニ對シテモ引キ續キ興味ト眞劍サヲ持タシムル上ニ不可測ノ效果アリシコト

三、他ノ凡ニ修養ニ對シテモ引キ續キ興味ト眞劍サヲ持タシムル上ニ不可測ノ效果アリシコト

四、職業ニ對スル眞摯ナル態度ニ與ツテ大ニ力アリシコト

ヲ痛感確認スルモノニ有之候願ハクバ今後毎年一回又ハ二回は是非御開催被下勞務者ノ教養善導ニ御配神賜ハリ度懇望仕リ候猶聽講生中一部ノ者ヨリ感想文ノ提出有之供御清覽候

日本毛織株式會社姫路工場

今回文部省御主催ノ下ニ姫路市ニ於テ御開催ニ相成申候中堅勞務者講習講座ハ出席者一同ハ誠ニ有益且ツ適切ナルモノニシテ多大ノ利益ヲ收メ殊ニ講師諸先生ノ熱心サニハ感謝ノ外無之ト感銘仕リ居リ候御關係ノ各位ノ御努力ニ對シ誠ニ厚ク御禮申上候管理責任者ニ於テモ爾今御開催ノ回ヲ重ネラル、様ニ致度キ切望ニ御座候先ハ右御挨拶旁々御禮申上候也

阿部農具製作所

拜啓御問合セニ預リ早速御返信申上候本年中堅勞務者講座ハ非常時ノ折柄誠ニ結構ニ御座候例年ノ如ク明年度モ益々御盛大ナル開講ヲ待

チ居リ候右電筆乍ラ御回答マデ

日本火藥製造株式會社姫路作業所

今般文部省主催ノ下ニ中堅勞務者ノ爲ニ教育講座ヲ開催セラル、ニ從ヒ早速御主旨ニ賛同シ希望者ヲ募リ候處昨年ニモ増シ三十二名中十八名ノ自發的申出ヲ受ケ會社トシテモ希望ヲ入レ能フ限リノ便宜ヲ計ラヒシ結果良ク聽講セルハ喜ニ不堪次第ニ御座候日々勞務ニ従事スル者ハ一般常識涵養ノ機會ヲ把握スルノ至難ナル立場ニ在リ學識アル講師ニ接スルノ機ヲ與ヘラレ且其有益ナル講話ヲ聽クニ及ビ其ノ身ノ修養練磨ニ資スル事大ナルヲ測不知申候昨年度受講シ且引續キ本年モ受講セシモノ十八名中九名ニ及ビ累年ノ受講ノ有益ナルヲ思フニ至ラバ本講座ノ重要ナル事由ヲ如實ニ表ハスモノト確信仕居候就中漏聞セバ自然科學講座ニ於ケル實驗ハ非常ニ有益ナリト申シ斯ル講座ノ多キニ希望ノ様ニ察シ且開講ノ講話等平易ニシテ良ク受講者ノ心ヲ取ラレシカニ拜察仕居候右様ニ有之本講座ハ益々其重要ノ度ヲ加ヘツ、アルヲ見御同慶ノ至リニ御座候此後共市御當局トシテ一倍ノ御盡力ヲ渴望致候昨末筆本講座ノ講師諸賢及當局各位ニ衷心ヨリ感謝シ御無禮ニハ候モ取急ギ以書中御禮旁々御挨拶申上度如斯ニ御座候

六、講師指導員事務取扱ノ感想報告

一、本年度ハ昨年度ニ比較シテ受講者數、出席者數終了者共ニ良好ニシテ且ツ受講員ノ眞摯熱心ナルコトハ毎回ノ講師ヲシテ賞讃セシムルニ至レリコノ狀況ハ數回本市ニ於テ開催セラレタル文部省並ニ兵庫縣主催ノ勞務者教育ノ效果ト特ニ本年ハ男女混合講座ヲ實施シタルト從來ヨリモ多ク中小工業者ノ使用人ニ集メタルト講座期間僅ニ六日間ノ短期ナルニ基因スルコトハ勿論ナルモ本講座開催前即チ本年十月二十二日ヨリ五日間兵庫縣産業獎勵館ニ於テ官業及民業勞務擔當者勞務者教育關係者ノ協議講習會ヲ開催セラレ各勞務者ノ指導階級者ニ其ノ理解ヲ徹底セシメラレタルコトニ大ナル原因ヲ有スルモノト確信スル次第ナリ依テ將來斯クノ如ク上司ニ於テ指導獎勵セララル、コトハ最モ有效ナリト認メタリ

二、講座ノ實施ハ夜間ナルヲ以テ開設期稍々冷氣ヲ感ジタリ

七、詳細ナル決算報告 (省略)

八、募集要項、講義要項、其他本施設ニ於ケル配付物 (省略)

- 事務取扱ノ職氏名
- 兵庫縣社會教育主事補 西川嘉吉
- 姫路市社會課長 倉岡瑞穂
- 姫路市社會教育主事補 渡邊時一郎

一、準備

1・印刷物

中堅勞務者教育講座趣旨、課目、要項市長案内狀

受講券並ニ受附簿及日割表其他

2・募集

イ、尼崎市長名ヲ以テ使用人数名以上ヲ有スル會社工場、商店、郵便局、青年團、並ニ各學校長等二百十五ヶ所ニ案内狀ヲ趣旨課目要項書ト申込書ト共ニ發送ス

ロ、人夫一名ヲ雇入レ印刷物ヲ配付其ノ他電話又ハ口頭ヲ以テ勸誘ヲナス

3・會場

イ・尼崎市立商工實修學校講堂並ニ職員室ヲ使用ス

ロ、講堂ニハ職員用机二個、生徒用裁縫机二十個、電燈六十ワット十個、百ワット二個、塗板其他教授用具一切ヲ備ヘ且ツ喫煙所、湯呑場ヲ設ケ尙入口ニハ上草履百足ヲ準備ス

4・申込申込期日ハ講習開始當日即チ十一月十五日トシタルニ案内狀ヲ發送シタル二百十五ヶ所ト其他ヨリノ者ヲ合シ申込者八十四名トナレリ

5・受講狀況並ニ效果

性別	生徒數	皆勤者	一回缺席	二回缺席	三回缺席	四回缺席	五回缺席	中途退學者
男	八四	二四	六	七	六	三	七	一
女	一	一	一	一	一	一	一	一
計	八四	二四	六	七	六	三	七	一

和歌山縣

委囑先 和歌山縣
開設地 和歌山市

施設概覽

委嘱先和歌山縣

開設地	會場	期	間	科目數	延時間數	生徒數	關係者數
和歌山市	和歌山高等商業學校			五	六	一五	七五
				六	一五	七五	六二
						六二	四〇
						八二〇	六
							六

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回数	時間數	備考
和歌山市	十月八日(月) 自午後六時半 至午後九時半	新開經濟欄ノ讀ミ方	大阪毎日新開社經濟部長 下田將美	一	三	
	十月九日(火) 自午後六時半 至午後九時半	工場生活ト趣味	和歌山高等商業學校長 花田大五郎	一	三	
	十月十日(水) 自午後八時半 至午後十時半	宗教即生活	古義眞言宗庶務部長 高橋慈本	一	二	
	十月十一日(木) 自午後八時半 至午後九時半	選舉法ノ改正ニ就テ	和歌山縣地方課長 安田元七	二	二	
	十月十二日(金) 自午後六時半 至午後九時半	時局問題ト國民ノ覺悟	歩兵第六十一聯隊附 關勉	一	二	
	十月十二日(金) 自午後六時半 至午後九時半	國史ノ精髓	大阪女子專門學校教授 魚澄惣五郎	一	三	

年齡別調

開設地	生徒數	未二十歲	自廿一歲至廿五歲	自廿六歲至卅歲	自卅一歲至卅五歲	自卅六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至六十歲	以上	備考
和歌山市	100%	1%	25%	26%	33%	24%	6%	3%	1%	1%	備考

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校中途退學卒	尋常小學校卒	高等小學校卒	補習學校卒	中等學校中途退學卒	中等學校卒	專門學校中途退學卒	專門學校卒	專門學校以上	備考
和歌山市	100%	1%	1%	20%	49%	4%	1%	8%	1%	7%	1%	備考

職業別調

開設地	生徒數	無業	金屬工業	機械器具業	化學工業	織造工業	紙工業	皮革、骨、甲、木等工業	嗜好食品、飲料、藥品	被服、影身、製造業	建築、土木業	製糖、印刷業	藝文、娛樂業	瓦、電氣業	鑛業	交通運輸業	其他	備考
和歌山市	100%	1%	1%	1%	100%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	備考

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項
 昭和九年六月二十八日付ヲ以テ本講座開設ヲ文部省ヨリ依頼セラレタルニ依リ、先づ、受講者側タル各工場ニ對シ、本年度開設ノ本講座ニ付開設ノ時期、時間、講師並科目、會場等ニ關スル希望ヲ徵シ、之ヲ參考トシテ、講師、並會場タル、和歌山高等商業學校ト交渉ヲ進メテ八月八日ヨリ五日間(夜間)開催シタリ、講座科目ニハ特ニ留意シ、受講者ノ希望ヲ參照シタル結果終始、熱心且愉快ニ受講シ終了後工場當事者及受講者以外ノ社員職工等ニ及ボシタル影響餘カラサルモノト認メラル

二、講義ニ對スル質疑、應答ノ内容、生徒ノ感想

1. 講義ノ質疑應答
 講義時間數乏シキ爲乍遺憾質疑、應答ノ時間ヲ得ザリキ
 2. 講義ニ對スル生徒ノ感想
 講座科目ノ選定ニ付、苦心セラレタルヲ感謝ス、特ニ宗教問題ヲ加味セラレタルハ感銘ニ堪ヘズ
 將來ハ科目數ヲ少クシ、時間ニ餘裕アル様配慮セラレタシ
 體操、音樂等ハ工場生活者ニトリテ特ニ必要ト思料セラル、ヲ以テ將來此ノ方面ニモ留意セラレタシ
- 三、懇談會ニ關スル事項
1. 時間ノ關係上受講者ノ懇談會、討論會等ノ時間ヲ十分得ザリシハ遺憾ナレドモ日本勞務者教育協會和歌山縣支部ニ於テ此ノ種會合ヲ開催ノ豫定ナリ
 2. 毎日講義開始前約一時間宛著音器ニヨル音樂ヲ聞カシメ受講者ニ好影響ヲ與ヘタリ
- 四、本施設終了後、修了者ニ對スル輔導計畫
1. 本講座終了者ヲ日本勞務者教育協會和歌山支部會員トシテ加入セシメ支部規程ニ基キ輔導セントス
 2. 本縣トシテハ、今後文部省委囑ノ勞務者講座以外ニ、前記支部ヲ中心トシテ座談會、研究會、遠足、見學等ヲ行ハントス
- 五、講師、指導員、事務取扱等ノ感想
1. 講師ノ感想、聽講者ノ熱心ニシテ眞面目ナルハ、敬服ニ堪ヘズ、時間ノ乏シキハ遺憾ナレドモ愉快ニ講義ヲ爲シ得タリ
 聽講者側ノ感想、希望等ヲ出來得レバ知リタシ
 聽講者ノ學歷程度各種ニワタル爲、講義ノ程度ニ付相當考慮ヲ要ス
 2. 事務取扱者ノ感想
 過去三回ニワタル本講座ノ結果ニ鑑ミテ本施設ハ勞務者教育上極メテ有効適切ナルモノト思料セラル
 將來勞務者自身ノ覺醒ト工場當局者ノ理解ト相俟ツテ今少シ廣ク本施設ヲ利用セラレタシ、女子ノ聽講者ヲ得ル爲ニ將來工場當局ト折衝ノ上畫間ニ於ケル講座ヲ開設致シタシ
- 六、本施設ニ對スル會社、工場管理者並一般社會ヨリノ感想
- 本施設ハ機宜ニ適シタル好施設ト存ズルモ工場トシテハ諸種ノ事情ニヨリ、多クノ受講者ヲ出シ得ザルハ遺憾ナリ
 講義科目ニ適當ト存ズルモ講師ハ可成其ノ道ノ實際家ヲ招聘セラレタシ

七、本施設ニ對シ會社、工場ヨリ與ヘラレタル便宜ニ關スル件

本施設ニ對シテ工場側モ漸次理解ヲ持チ、本年度ノ如キハ人事主任等ノ受講スル者多ク、將來ハ相當便宜ヲ與ヘラル、モノト信ズ

八、決算報告(省略)

九、講義要項其ノ他(省略)

事務取扱職氏名

指導員	和歌山縣社會課長	緒方孝三郎
事務取扱	和歌山縣社會事業主事補	岡本秀雄
	同	貝尻良雄
	和歌山縣屬	西田鷹市

岡山縣

委囑先	岡山縣
開設地	岡山市

施設概覽

委嘱先岡山縣

開設地	岡山市	會場	岡山縣教育會館	科目數	八	延時間數	一九三	生徒數	二〇六	修了者數	二三	皆出席者數	八九	皆出席者修了步合	三三	關係者數	三七	
期日、曜日、時間	十二月一日(土) 自午後六時十五分至午後七時四十五分	十二月二日(日) 自午後七時四十五分至午後八時十五分	十二月三日(月) 自午後六時四十五分至午後七時十五分	十二月四日(火) 自午後六時十五分至午後七時四十五分	十二月五日(水) 自午後七時四十五分至午後八時十五分	十二月六日(木) 自午後六時十五分至午後七時四十五分	十二月七日(金) 自午後八時十五分至午後九時	十二月八日(土) 自午後八時十五分至午後九時	十二月九日(日) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十日(月) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十一日(火) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十二日(水) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十三日(木) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十四日(金) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十五日(土) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十六日(日) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十七日(月) 自午後八時十五分至午後九時	十二月十八日(火) 自午後八時十五分至午後九時

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回数	時間數	備考
岡山市	十二月一日(土) 自午後六時十五分至午後七時四十五分	吉野朝時代	第六高等學校教授 藤井 駿	二	三	
	十二月二日(日) 自午後七時四十五分至午後八時十五分	我國體ノ特徴ト思想對策	岡山縣第一岡山商業學校校長 野田 一	二	三	
	十二月三日(月) 自午後六時四十五分至午後七時十五分	珠算	岡山縣第一岡山商業學校 森本 榮次郎	二	三	
	十二月四日(火) 自午後六時十五分至午後七時四十五分	新聞ニ現レタル經濟記事	岡山縣第一岡山商業學校 中田 豐衛	二	三	
	十二月五日(水) 自午後七時四十五分至午後八時十五分	簿記	岡山縣第一岡山商業學校 上村 敬太郎	三	三	
	十二月六日(木) 自午後六時十五分至午後七時四十五分	法律常識	岡山縣社會教育主事補 小瀬 惇	二	三	
	十二月七日(金) 自午後八時十五分至午後九時	體操	岡山縣社會教育主事補 小瀬 惇	八	八〇分	
	十二月八日(土) 自午後七時十五分至午後八時	音樂	岡山縣社會教育主事補 小瀬 惇	八	八〇分	
	十二月九日(日) 自午後八時十五分至午後九時	趣味講話	岡山市會議員 名畑 一夫	一	一	
	十二月十日(月) 自午後八時十五分至午後九時	映畫	岡山市會議員 名畑 一夫	一	一	
	十二月十一日(火) 自午後八時十五分至午後九時	映畫	岡山市會議員 名畑 一夫	一	一	

年 齡 別 調

開設地	生徒數	未二十歲	自廿一歲至廿六歲	自廿七歲至卅一歲	自卅二歲至卅六歲	自卅七歲至四一歲	自四二歲至四六歲	自四七歲至五十一歲	自五十二歲至六十歲	六十以上	備考
岡山市	100%	45.5%	31.7%	21.6%	6.5%	3.5%	0.8%	0.8%	—	—	—

學 歷 別 調

開設地	生徒數	不就學者	小學校	尋常小學校	高等小學校	補習學校	中等學校	中等學校專門學校	專門學校	備考
岡山市	100%	—	—	—	—	—	—	—	—	—

職 業 別 調

開設地	生徒數	業 察	業工屬金	具器械機製	業工學化	業工維織	業工紙	木甲骨革皮	品料食飲嗜	り廻身服被	木 土	刷印版製	業娛藝學	新 瓦	業 鑽	通 交	他 其	考 備	
岡山市	100%	—	0.8%	0.8%	—	3.5%	0.8%	—	3.0%	3.8%	—	0.8%	0.8%	1.0%	2.4%	—	3.5%	3.5%	—

備考 一、飲食料嗜好品業中ニハ專賣局勤務者二三名アリ
 二、被服身週品製造業中ニハ百貨店員七名アリ
 三、其ノ他内譯左ノ通り
 給仕 一七名 會社員 四名 官公吏 一三名 學生 一名 自轉車商 二名 藥種商 三名 音樂家 一名 雜三名

一、本施設ノ準備狀況、效果等ニ關スル事項報告
 當講座ヲ開設スルニ先チ講師及事務取扱等ノ選定ニ次デ市内及近接町村ノ主ナル工場商店、官公衙、學校等ノ代表者ニ對シ勸誘申込者勸誘依頼狀ヲ發スルト共ニ講師及事務取扱ヲシテ勸誘ニ當ラシメタル外本年ハ特ニ專門勤務員ヲ雇入レ主トシテ組合、商店、百貨店員等ノ勸誘ニ努メタル結果申込者百二十餘名ニ達セリ
 二、講義ニ對スル質疑、應答ノ内容、生徒ノ感想、論文、演習等ニ關スル報告
 當講座ハ一般勞務者ニトリ頗ル有益ナル講座ナルヲ以テ希クハ毎年一回以上男女勞務者ニ對シ數科目ヲ連續的ニ二週間乃至一ヶ月間ニ亘リ開催ヲ希望ス
 尙當講座ニ音楽、體操、映畫、趣味講話等ヲ課セラレタルハ學修上興味深ク晝間業務ニ從事シツ、アル一般勞務者ニ對シ非常ニ有益ナルヲ認メタリ
 三、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル報告
 當講座修了後、茶話會ヲ開催シ委員三十五名ヲ選定シ將來本講座實施ニ關シ時々協議會ヲ催ス計畫ナリ
 四、本施設修了後修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告
 前項ニ示ス委員ノ設置ニ依リ徹底的輔導ヲ爲ス計畫ナリ
 五、本施設ニ對スル會社、工場管理者並一般社會ヨリ感想批評ノ報告
 本項ニ關シテ今後適當ノ時期ニ於テ感想文ヲ提出セシメ其批評ヲ仰グ答
 六、講師、指導員、事務取扱等ノ感想ノ報告
 1. 講師ノ感想 講義中聽講者ハ何レモ晝間勞務後ノ疲勞ニモ拘ラズ熱心ニ聽講シタルヲ以テ充分講義ノ徹底ヲ期シ得タリト確信ス
 2. 事務取扱ノ感想 聽講者ハ昨年ニ比シ二十一名ヲ増シ、修了者モ八名ヲ増シ、修了歩合昨年ニ化シ二・七ヲ増加シタルハ此種講座開設ハ最モ時宜ニ適シタルモノニシテ本年ハ水害ノ爲メ開設期遅レタルヲ以テ次回ハ十月下旬ヨリ十一月中旬迄ノ期間ニ於テ開催セバ一層聽講者ノ増加ヲ見ル可シト信ズ

七、出席者中八十九名ニ對シ感想、質問ヲ發シ回答ヲ得タルモノ六十七名ニシテ質問案ト回答數左ノ通り
 1. 問 學科目ノ種類 本年ノ如ク五六科全部ヲ講習スルガ良イカ又ハ二、三科目ヲ選擇シテ講習スルガ宜イカ
 答 五、六科目希望 四三名 二、三科目希望 二四名 別科希望 機械工學 二 宗教 一 英語 一 電氣學 一
 商業科目ト工業科目ヲ別々ニ講習希望 一〇
 2. 問 學科目ノ配列 同一科目ハ連續シタガ良イカ又ハ隔日ニシタガ良イカ

- 答 連続希望 五三名 隔日希望 一四名
- 3. 問 教授期間 本年ノ如ク一週間乃至十日位ノ短期ガ良イカ、又ハ二週間以上三週間位ノ長期ガ良イカ
 容 一週間希望 八名 十日間希望 一三名 短期希望 五名 二週間希望 一五名 三週間希望 九名 長期希望 一七名
- 4. 問 開催ノ時期
 答 四、五月頃希望 一名 九月頃希望 一名 十月頃希望 九名 十月ヨリ十一月頃希望 五四名 十二月頃希望 二名
- 5. 問 教授方法 本年ノ如キ程度ノ講義ハ貴下ニ判明シマシタカ
 答 判明シタルモノ 六〇名 判明シナイモノ 五名 向上希望 二名

廣 島 縣

委 嘱 先 廣 島 縣
 開 設 地 廣 島 市

施設概覽

委嘱先 廣島縣

開設地	廣島市	會場	廣島市袋町小島學校	期	五	科目數	六	延時間數	一五	生徒數	1001	關係者數	六
										申込者一許可者一修了者一皆出席者修了歩合	100	講師事務取扱	三

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回数	時間數	備考
廣島市袋町小島學校	十二月四日(火) 自午後七時 至同八時半	日本精神	廣島高師教授 久村俊雄	一	一・五	熱心ニ日本精神ヲ強調ス
	至同八時半 自午後八時半 至同十時	國史	山陽岡光著者 光本半次郎	一	一・五	七十八歳ノ高齡シカモ壯者ヲ 凌グ山陽先生ノ自力更生ヲ述 ブ
	十二月六日(木) 自午後七時 至同十時	經濟	廣島高校教授 山尾政治	一	三〇	明快雄辯
	十二月八日(土) 右同	文學	右同 雜賀忠義	一	三〇	「ユイモア」ヲ交ヘテ西洋文學 ノ解説ヲナス
	十二月十一日(火) 右同	民法	廣島地方裁判所判事 峯宮	一	三〇	民法ノ概略ヲ述ブ
十二月十三日(木) 自午後七時 至同九時	生活指導	社會教育主事 野平正男	一	一・五	青年ニ對スル修養ヲ説ク	

備考 茶話會ヲ本講座最終日午後九時ヨリ開催

年 齡 別 調

開設地	生徒数	未滿	自廿一歲至廿六歲	自廿七歲至卅一歲	自卅二歲至卅六歲	自卅七歲至四十一歲	自四十二歲至五十歲	自五十一歲至六十歲	六十以上	備考
廣島市	六	九	一三	一九	三	八	七	七	二	一

學 歷 別 調

開設地	生徒数	不就學者	中途退學卒業者	小學高等小學補習學校中等學校中等學校專門學校專門學校畢業以上	備考
廣島市	六	一	一	七	四

職 業 別 調

開設地	生徒数	蒸業	金工	機械製造	化學工業	織業	紙工	皮革類	骨等類	甲木業	食品嗜好品	被服製品	土木建築業	製紙印刷業	學藝裝飾品	瓦斯電氣業	鐵業	交通運輸業	其他	備考
廣島市	六	一	二	二	五	二	四	一	二	二	八	一〇	一	一	一	四	一	二	一	一

一、本施設準備、狀況、效果等ニ關スル事項ノ報告
 イ、開校十日前本施設ノ趣旨並講義内容講師期日等詳細ナル印刷物三千枚ヲ廣島市各工場、組合等ニ配布シ宣傳ニ努ム
 ロ、市内目貫ノ箇所ニ布製ベンキ塗縦六尺五寸横三尺ノ立看板八枚ヲ建テタリ
 本年度ノ立看板廣告ノ意味モ又昨年度同様本講習生募集ニハ左程大々の街頭立看板ノ如キハ其ノ必要ナカリシモ、一般社會ニ對シ文部省ガ如何ニ勞務者教育ニ對シ關心ヲ有セラル、カヲ知悉セシメントスル目的ニ用ヒタルナリ

ハ、縣下各新聞紙ニ本施設ノ趣旨内容等ヲ發表シタリ

ニ、今回モ昨年度同様正規ナル勞務者教育ヲ享ケツ、アルモノ等ハ之ヲ除外シタリ而シテ昨年度ニ於テ百五十四名ヲ講習セシメタルモ餘リ大多數ナリシ爲メ却ツテ講演會等ノ如キ觀ヲ呈セルヲ以テ本年度ニ於テ七十五名ヲ限リ講習セシメ以テ講師及事務取扱者等ト人格的ナル交渉ヲ保タシメントシタルニ、其結果ハ果シテ良好ナリ

二、講義ノ質疑、應答ノ内容、講師ノ感想、論文演習等ニ關スル報告

イ、質疑 生徒。(民法講座)
 「權利ノ濫用ハ理論上如何ナル場合ニ認ムベキカ」
 ロ、講師應答

「例ヘバ之ヲ所有權ニ付テ述ベルナラバ、故意ニ自己ノ所有權ヲ行使シテ他人ヲ害セントスルガ如キ場合ニ於テ所有權ノ濫用ト認メラルルモ、故意ニアラズシテ自己ノ爲ニ己レノ所有權ヲ行使シタ場合ニ於テタトヒ他人ニ不利ナル結果ヲ齎シタリトスルモ現在ノ觀念ニテハ所有權ノ濫用トハナラズ」其他經濟問題文學等ニ若干ノ質問等アリタリ

生徒ノ感想等ハ特ニ徵セザルモ懇談會席上ニ於テハ一般的ニカ、ル施設ニハ感謝致シ居レリ

三、懇談會討論會、遠足、見學等ニ關スル報告
 本講座最終日ニ講師及事務取扱等出席生徒一同ト懇談會ヲ開催シタルトコロ茶葉談笑裡ニ種々ノ意見等ノ交換アリ種々裨益スル所甚大ナリシナリ

四、本施設終了後修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告

業ヨリ勞務者教育ノ如キハ此ノ數回ヲ以テ足レリトスベキニアラズ依而本講座終了者ニハ毎月一回乃至二回勞務者講座ヲ開催シ又日本勞務者教育協會等ノ機關紙等ヲ購讀セシメル等修了後ノ輔導ニ當ラントス、但シ本年度ノ本講座終了者從來殆ド日本勞務者教育協會員ナリシハ甚ダ喜ブベキ現象ナリトス

五、本施設ニ對シ社會工場管理者並一般社會ヨリ感想批評ノ報告

特ニ之ガ批評等ヲ徵シタルコト無キモ工場會社等ハ非常ニ好意ヲ以テ迎ヘ講習生ヲ勞務主任等自ラ率ヒテ來ルモノ多々アリ、本講座ヲ始メニ開始セシ當時多少ノ危惧ヲ持チ工場側アリシコト、考ヘ合セテ非常ナル進歩ト云ハザルベカラズ

但シ一般社會人ニハ未ダ勞務者教育ノ持つ精神ハ徹底シテ居ラザルガ如シ

六、講師指導員、事務取扱等ノ感想ノ報告

文部省ニ於カレテハ斯クノ如キ講座ヲ各地ニ開催セラル、コトハ寔ニ感謝ニ堪ヘ無ナイトコロデアツテ、講師及事務取扱等ハ感激シ居レリ

但斯クノ如キ講座年次ニ重ネテ行ハレタキ希望ヲ有セリ
七、本施設ニ對シ會社工場ヨリ與ヘラレタル便宜ニ關スル報告
廣島地方專賣局。帝國人絹株式會社廣島工場等ハ常ニ好意ヲ以テ講習員等ヲ卒先シテ派遣セラレ關係者ハ感謝シ居レリ
事務取扱者ノ職氏名

社會教育主事補	久保田 武夫
社會事業主事補	龜澤 國吉
屬	住谷 一登

愛媛縣

委囑先	愛媛縣
開設地	今治市

委 嘱 先 愛 媛 縣

施 設 概 覽

開設地	會 場	期 間	科目数	延時間数	生 徒 數	關係者數
今 治 市	今治市公會堂	五	六	一五	申込者 (一六七) (九五) 許可者 (一六七) (九五) 修了者 (一四五) (二〇) 皆出席者修了歩合 (一四五) (九五) 八六八三 六 三	

備 考 延時間数ハ音樂體操ヲ除キタル時数トス

講 師 及 講 義 題 目 一 覽

開設地	期 日、曜 日、時 間	講 義 題 目	講 師 職 氏 名	回 數	時 間 數	備 考
今 治 市	自二十二日各日 至二十六日各日	音樂體操	今治實業專修學校教諭 菅 俊 一	一	五 開講前後 十五分宛	
	二十二日(月) 自午後六時至九時	日本國民精神	愛媛縣師範學校校長 佐 伯 千 尋	一	三	
	二十三日(火) 自午後六時至九時	今治織物界ノ狀勢	地方商工技師 菅 原 利 鏗	一	三	二十三日前半一時間半
	二十四日(水) 自午後六時至九時	伊 豫ノ忠臣	北嶽中學校囑託 景 浦 直 孝	一	三	
	二十三日(火) 二十五日(木)	詩ノ解釋ト朗吟	小學校長 尼 子 譽 一	二	三	二十三日後半一時間半 二十五日前半一時間半
二十六日(金) 自午後六時至九時	極東ノ狀勢ト國防	陸軍歩兵少佐 鳥 崎 浩 海	一	三		

年齢別調

開設地	生徒数	未満	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至卅歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至六十歳	六十一歳以上	備考
今治市	100% (九五六)	七三%	三三%	三三%	一三%	四%	一%	一%	一%	一%	

學歷別調

開設地	生徒数	不就	中途退學	卒業	高等小學	補習學校	中等學校	中等學校	專門學校	專門學校	備考
今治市	100% (九五六)	一六%	一六%	三六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	

職業別調

開設地	生徒数	業	業工屬金	具器械機製	業工學化	業工維織	業工紙	類竹木革皮	業工造製等	業品料食飲	リ題身服被	業造製等	業築建土木	刷印版製	業本製	業模藝學裝	業氣電斯瓦	業	業輸運通交	他ノ其	備考
今治市	100% (九五六)	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	一六%	

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項ノ報告

イ、九月二十七日事務取扱近藤社會教育主事今治市へ出張今治市事務取扱者並ニ豫定講師ヲ歴訪シ施設各般ニ關シ打合せリ
 ロ、九月二十九日市内四十餘工場會社等へ近ク勞務者講座開催ノ旨豫報ヲナシ受講者選出手配依頼セリ更ニ講座施設確定ニ及ビ勸誘狀、講座要項印刷物等ヲ發送セリ、同時ニ市内諸新聞紙へモ詳細掲載シ一般勞務者ニ對スル周知方ニ努メ併セテ此種施設アルコトヲ一般社

會へモ發表セリ

ハ、更ニ市保員主ナル十數工場ヲ訪問シ趣旨ノ徹底ト受講勸誘ニ努メタリ

狀況

受講者ノ大多數ハ何レモ會社、工場主ノ推薦ニ係レルヲ以テ其責任感ト素質ノ優良ナル事ニヨリ各科共熱心ニ聽講シ出席率良好ナリ、殊ニ目下各工業共非常ナル活況ニテ其成績ヲ危ミタルニ申込者、修了者、修了歩合共ニ昨年ヨリ優秀ナリシハ誠ニ喜バシキ次第ナリ

效果

受講者ハ何レモ所定ノ事項ヲ充分修得シ尙之ヲ動機ニ進ンデ之等事項ニ付研究努力シ今一層修養セントノ熱意大ナルヲ認メタリ
 二、講義ニ對スル質疑應答ノ内容、生徒ノ感想、論文、演習等ニ關スル報告受講者ハ何レモ終日勞役ニヨリ相當心身疲勞セルヲ以テ餘リニ心身ヲ緊張セシメ窮屈ヲ感ゼシムル倫理方面ノ科目ハ可成之ヲ除キ朗カニ聽キ得ルモノニセラレタシ、我等ハ工場ニ於テ招聘セル講師ニヨリ常ニ此ノ種講師ノ講話ヲ聽キ居レリト、但シ之ハ大工場従業員ノ要求ナリ

三、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル報告
 施行セザリシヲ以テ記事ナシ

四、本施設終了後修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告
 前年ニ引續キ「今治勞務者修養會」ヲ開催シ主トシテ修養方面ニ努力スルコト

五、講師、指導員、事務取扱等ノ感想ノ報告
 講義開始時間ハ工場會社等ニ在リテハ未ダ操業中ニ屬シ近時従業員ノ整理ヲ極度ニ斷行セル結果一人出席セシムルモ忽チ支障ヲ來スノ現状

ニアリ、殊ニ小工場會社等ニ於テ然リトス、從テ結果ニ於テハ大工場、會社等ヲ對象トスル事トナル之ハ本施設ノ主旨ニ適合セザル所ニ非ザルヤノ惧レアレトモ己ムヲ得ザルナリ

六、本施設ニ對スル社會工場管理者並ニ一般社會ヨリノ感想批評ノ報告
 會社工場側ハ本施設ニ對シテハ昨年ノ經驗ニヨリ良ク理解セルヲ以テ非常ナル賛意ヲ表シ今後ノ續行ヲ希望セリ

七、本施設ニ對シ會社工場ヨリ與ヘラレタル便宜ニ關スル報告
 出席者受講中ノ時間ハ工場勤務ト同様ノ取扱ヲ爲シ以テ可及的多數者ノ出席ニ苦心ス

八、詳細ナル決算報告(省略)

九、募集要項講義要項其ノ他(省略)

事務取扱 愛媛縣教育課社會教育主事 近藤新一 同 主事補 野村 晃 今治市教育課長 文野庄七

長

崎

縣

開設地

平

戸

町

委嘱先

長

崎

縣

施設概覽

委嘱先長崎縣

開設地	平戸町	會場	勸業館	期	間	科目數	延時間數	生	徒	數	關係者數
開設地	平戸町	會場	勸業館	期	間	科目數	延時間數	申込者	許可者	修了者	皆出席者
								一七六	一三五	一一〇	七三
								八八・八九	五	三	

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回数	時間數	備考
平戸町	二月二十二日(金) 自午後六時三〇分 至午後一〇時	時事解説	平戸町長 岸井敬太郎	一	三	
	二月二十三日(土) 自午後六時三〇分 至午後一〇時	商業實踐	長崎高等商業學校教授 馬場誠	一	三	
	二月二十四日(日) 自午後六時三〇分 至午後一〇時	日本精神と平戸	長崎縣社會教育課長 木島甚久	一	三	
	二月二十五日(月) 自午後六時三〇分 至午後一〇時	保健と衛生	長崎縣衛生技師 内野總一	一	三	
	二月二十六日(火) 自午後六時三〇分 至午後一〇時	經濟と道德	長崎縣學務部長 上原參良	一	三	
	期日中毎日	體操	平戸尋常高等小學校 訓導 豐島可成	五	一	
	期日中毎日	音樂	平戸尋常高等小學校 訓導 山浦フイ	五	一	

年 齡 別 調

開設地	生徒数	未二十歳	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至三十歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至六十歳	六十歳以上	備考
平戸町	1100	19.3%	36.2%	25.6%	14.1%	14.1%	5.3%	0.7%	3.0%		

學 歴 別 調

開設地	生徒数	不就學者	小學校中途退學卒業者	尋常小學校卒業者	高等小學校卒業者	補習學校卒業者	中等學校中途退學卒業者	中等學校卒業者	專門學校中途退學卒業者	專門學校卒業者以上	備考
平戸町	1100	3.0%	37.8%	16.3%	3.0%	3.0%	36.3%			3.7%	

職 業 別 調

開設地	生徒数	窯業	金工業	機械製造業	化學工業	織工業	紙工業	皮革、骨、甲、木等類	食品、飲料、嗜好品	被服、製織品	土、建築業	印刷、製本業	學藝、裝飾品業	瓦、電氣業	交通運輸業	其他	備考
平戸町	1100	0.4%	2.2%				4.4%	4.4%	26.3%	5.2%	1.5%	0.7%			1.5%	67.4%	

一、本施設ノ準備状況效果等ニ關スル事項ノ報告

1. 二月九日北松浦郡平戸町勸業館ヲ本施設ノ會場トシテ借用スルコトヲ交渉シ承諾ヲ受ク
2. 二月十日本町並近接町村ノ要所ニ本施設ヲ廣告シ同十四日別紙添附ノ趣意書並申込書ヲ一般ニ配布シ二月十八日ヲ期シ申込ヲ締切ル
3. 二月十九日申込者ニ對シテ受講心得並出席票ヲ配布シタ
4. 本施設ハ極メテ盛會ニ終始シ充分其ノ目的ヲ達成シタルモノト信ズ

二、講義ニ對スル質疑應答ノ内容生徒ノ感想、論文、演習等ニ關スル報告

1. 毎日講義終了後三十分ノ豫定ヲ以テ質疑應答ヲ行ヒシニ發問連發シテ問ニ對シ懇切ナル指導アリ會員ハ充分ナル理解ヲ得タ事ト信ズ
 2. 懇切ナル講義ニヨリ非常時局ノ認識ヲ深メ日本精神ヲ陶冶シ知識ヲ啓發セル點ガ多カッタ事ヲ感謝ス
 3. 斯カル催シハ毎年繼續シテ戴キタイ、其ノ時期ハ一月中旬ヨリ二月下旬迄ヲ最適トス
 4. 出來得レバ一日ノ講義ハ少クトモ二人以上ノ講師ニ於テ分擔セラレタシ
- 三、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル報告
1. 毎日豫定ノ講義ヲ終了シタル後懇談ヲ實施シタ
 2. 二月二十七日午後七時ヨリ十時迄座談會ヲ催ス
- 四、本施設終了後修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告
1. 年三回(六月、十月、二月)第一土曜ノ晚勞務者座談會ヲ開催シ互ニ意見ノ交換ヲナス
 2. 右座談會ノ主催者ハ平戸町長トシ平戸町實業青年會及ビ平戸實業公民學校ハ其ノ公務ヲ分掌スルモノトス
- 五、講師、指導員事務取扱等ノ感想報告
1. 應募者ノ意外ニ多カッタノハ欣快ニ堪ヘズ
 2. 受講者ハ稀ニ見ル緊張ヲ示シタ
 3. 講義時間稍々不足ノ感アリ
 4. 休憩時間ヲ利用シテ體操、音楽ヲ實施シタコトハ有效デアッタ
- 六、本施設ニ對スル會社、工場、管理者、並一般社會ヨリノ感想批評ノ報告
1. 一般勞務者ニ於テハ唯日々ノ勞務ニ追ハレ修養ノ機會少シ隨ツテ斯カル施設ハ極メテ有效適切ナルモノデアリ大イニ意ヲ強クスル所デアル、將來少クトモ年一回ハ引續キ開催サレタシ
- 七、本施設ニ對シ會社、工場ヨリ與ヘタル便宜ニ關スル報告
1. 各會社々長及工場主諸官官長ハ本施設ヲ了解シ自ら進ンデ其ノ業務ヲ繰合セ最大限度ノ多數ノ勞務者ヲ出席セシメタ、出席者ノ意外ニ多カッタノハ此ノ點ニモ起因スルノデアル
- 八、募集要項講義要項其ノ他省略

事務取扱 長崎縣實業教育主事

杉尾 正知

青年訓練認定平戸實業公民學校校長 北川庄太郎

北松浦郡教育主事

江頭伊三太

労働者の権利と義務

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

労働者は、労働契約に基づき、労働者に従事し、労働者に従事する義務を負ふ。

三、勞務擔當者講習會

昭和九年度勞務擔當者講習會實施概況

施設概覽

開設地	會場	期日	日數	科目數	延時間數	講師數	受講者數
神戶市	兵庫縣產業獎勵館	昭和九年 自十月二十六日 至十一月六日 (金)(土)(月)	五	七	三〇	七	一六
福岡市	九州帝國大學	昭和十年 自十一月十六日 至十二月九日 (土)(火)	五	八	二〇	八	一〇
金澤市	兼六會館	昭和十年 自十二月九日 至二十三日 (火)(土)	五	五	三〇	五	九六
累計			一五	二〇	九〇	二〇	四二

(神戸市)

一、日時 昭和九年十月二十二日(月)ヨリ二十六日(金)ニ至ル五日間毎日午前九時ヨリ午後四時迄

一、會場 神戸市 兵庫縣産業獎勵館

一、聽講者 官業及民業ノ勞務擔當者、勞務者教育關係者

一、科目及講師

勞務者教育問題 文部省社會教育局成人教育課長 松尾長造
 日本精神 大阪商科大学教授 田崎仁義
 戰時ニ於ケル軍需工業ノ經營ニ就テ 三菱重工業株式會社神戸造船所總務部長 岩崎勳一
 勞資關係論 住友會社勞務課長 波邊誠
 工場ニ於ケル安全及ソノ運動 神戸高等工業學校教授 清家誠
 最近ニ於ケル英國産業界ノ推移ニ就テ 神戸商業大學教授 田中金司
 趣味娛樂問題 文部省社會教育官 中田俊造

一、日程

月日	時間	九時	十二時	一時	四時
十月二十二日(月)	開會式	田崎講師		田中講師	
二十三日(火)		岩崎講師		波邊講師	
二十四日(水)		清家講師		波邊講師	
二十五日(木)		清家講師		中田講師	
二十六日(金)		松尾講師		修了式	懇談會

講義要項

日本精神

田崎講師

一、日本精神ノ中軸タル皇道成立ノ社會經濟史的説明

- (一) 順ノ生活、食ト性トニ不滿ナキ平和ノ生活
- (二) 逆ノ生活、食ト性トニ不滿アル動亂ノ生活
- (三) 食物ヨリ見タル亞細亞ノ三地帯

果食帶(南部)、原始生活 穀食帶(中東部)、農本生活、皇道トノ關係 肉食帶(北西部)、遊牧生活、霸道トノ關係

- (四) 歐羅巴民族ハ悠久ナル遊牧々畜生活ヲ經テ發展セリ、霸道的ノ傾向多キコト
- (五) 支那ノ王道又ハ儒教ハ農主牧從生活ヲ反映ス
- (六) 日本民族ノ神活ハ農業漁業生活ヲ示ス、記紀ニ現レタル動植物

二、皇道ノ四原理

- (一) 生々無息ノ原理 ムスビノ神、積極増進性
- (二) 血統々制ノ原理 萬世一系ノ皇位、家族制度、無競争絕對性
- (三) 實詐無窮ノ原理 建國ノ大宣言、國運ノ無窮發展性(彌策)
- (四) 天業恢宏ノ原理 萬邦協和ノ大理想、世界ノ親國タル性質

最近ニ於ケル英國産業界ノ推移ニ就テ

田中講師

- 一、序 説
- 二、英國經濟最近ノ變遷ト其ノ原因
- 三、英國經濟ノ新陣容
- 四、英國現時ノ不況對策
- 五、景氣回復ノ程度ト其ノ前途

戰時ニ於ケル軍需工業ノ經營ニ就テ

岩崎講師

- 第一、緒 言
- 第二、戰時ノ經營組織
- 第三、工場要員ノ充實維持
- 第四、工場設備ノ擴充
- 第五、材料品ノ統制管理
- 第六、工場ノ防護ト機密ノ保持
- 第七、結 語

一、總論

- 一、災害等ノ定義及分類
- 二、工場災害ニ對スル認識ノ變遷
- 三、工場災害豫防ノ必要
 - 1、産業合理化ノ上ヨリ
 - 2、人道上ヨリ
 - 3、勞資協調上ヨリ
 - 4、社會問題トシテ

二、工場災害

- 一、傷害
 - 1、全國工場及職工數
 - 2、傷害數
 - 3、傷害ノ種類
- 二、火災爆發
 - 1、火災爆發件數
 - 2、同上
 - 原因

- 三、災害發生ノ種々相
 - 1、工場分類別
 - 2、原因別
 - 3、男女別
 - 4、月別
 - 5、時間別
 - 6、年齡別
 - 7、勤続年數別
 - 8、負傷部位別
 - 9、負傷ノ種類別

三、安全運動

- 一、我國安全運動ノ沿革
- 二、工場安全運動ノ方法
- 三、安全運動
- 四、安全博物館

四、工場災害防止ニ關スル法規

- 一、外國ノ法規
- 二、我國ノ法規

五、結論

中田 誠 師

- 一、現代人ノ生活ト趣味娛樂ノ重要性
 - 1、娛樂休養ノ意義
 - 2、娛樂休養ノ諸方面トソノ要件
 - 3、國民ノ傳統的生活ト娛樂
- 一、吾國ニ於ケル娛樂ノ推移ト現狀
 - 1、農村娛樂ト現狀
 - 2、都會娛樂ト現狀
 - 3、青少年及各種職業層ト娛樂

一、歐米諸國ニ於ケル娛樂休養施設ノ進歩

- 1、伊太利、奧太利
- 2、英國、美國、獨逸
- 3、亞米利加

一、趣味娛樂ノ指導ニ就テ

- 一、勞務者教育ノ意義
- 二、勞務者ノ意義及範圍
- 三、勞務者教育ノ沿革
- 四、勞務者教育ノ內容
- 五、勞務者教育ノ方法
- 六、勞務者教育ノ現況
- 七、非常時ト勞務者教育

福岡市

- 一、日時 昭和九年十一月六日(火)ヨリ十日(土)マデ五日間毎日午前九時ヨリ午後四時マデ
- 二、會場 九州帝國大學本部會議室
- 三、聽講者 官業及民業ノ勞務擔當者、勞務者教育關係者
- 四、講義題目及講師
- 勞務擔當者ノ任務 九州帝國大學總長 松浦 儀次郎
 - 勞働問題 社會局勞働部勞政課長 中野 善教
 - 勞働管理 日本製鐵株式會社二瀨鐵業所勞務課長 吉田 友輔
 - 勞務者教育ノ實際 明治鐵業株式會社信和會幹事 犬伏 林十郎
 - 福利問題 三井礦山株式會社田川鐵業所主事 宇野 操一
 - 産業能率 日本製鐵株式會社八幡製鐵所技術課長 櫻井 秀三
 - 慰安娛樂 文部省社會教育官 中田 俊造
 - 勞務者教育問題 文部省社會教育局長 河原 春作

月日	時間	開會式	松浦講師	中野講師	午後一時—四時
十一月六日 (火)	午前九時—十二時	開會式	松浦講師	中野講師	中野講師
七日 (水)		宇野講師		宇野講師	宇野講師
八日 (木)		犬伏講師		櫻井講師	櫻井講師
九日 (金)		吉田講師		中田講師	中田講師
十日 (土)		河原講師		修了式	懇談會

講義要項

勞務擔當者ノ任務 松浦 儀次郎 師

勞働問題 中野 善教 師

- 一、勞働問題ノ本質ノ探究
 - 觀點ノ混亂ト本質ノ不明確
 - 産業ノ物の要素ト人的要素
 - 思想の内容ト經濟の内容
 - 二、勞働運動ノ軌道ノ究明
 - 勞働運動ノ現狀ト大勢
 - 原動力トシテノ思想ト經濟
 - 經濟問題ノ深刻性ト永續性
 - 實行方法ノ難易
 - 三、勞働爭議ノ過去及現在
 - 勞働爭議發生ノ基因
 - 爭議防止策ノ根本問題
 - 勞働立法ト爭議トノ關係
 - 四、産業平和ト罷業最少化
 - 罷業ノ原因別調ヨリ觀タル勞働者ノ一般の傾向
 - 罷業ト社會的不安
 - 不況時ニ於ケル罷業對策ト解雇手當制度
 - 五、勞働爭議解決方法トシテノ調停ト仲裁
 - 勞働爭議調停法ノ精神
 - 調停法ニ對スル勞資ノ態度
 - 仲裁制度ノ利害得失
- 勞働管理ノ意義及沿革
- 勞働管理ノ本來ノ意義ヲ略述シ併セテ産業革命以後ノ勞働管理ノ發達ニ付テ極メテ簡單ニ説明ス
- 勞働管理ノ重要性
- 調停委員會制度ノ實際
- 調停法改正問題ニ對スル勞資ノ意圖
- 調停制度ノ利害得失
- 調停制度ト仲裁制度トノ比較
- 官田 謙 師

- 一、現代ノ産業組織及社會制度ノ上ニ勞働管理ガ如何ナル使命ヲ有シ如何ニ重要ナル立場ニアルヤニ付テ略述ス
- 二、勞働管理ノ任務及適性
- 三、勞働管理ノ定義ヨリ勞働管理ノ企業形態中ニ於ケル地位及其任務ニ付説明シ、更ニ勞働管理トシテ果シテ如何ナル實質ヲ有スル者ヲ以テ適任者ト爲スベキヤニ付詳述ス
- 四、勞働管理上ニ付テノ一般ノ考察事項
 - 例 (一) 勞働管理ノ心得置クベキ事項 (二) 勞働者ノ心理的考察 (三) 勞働管理ト本来ノ作業管理ノ融合點 (四) 工場鑛山ニ於ケル勞働管理機關ノ組織 (五) 其他一般勞働管理上留意スベキ事項ニ付斷片的ニ述ブ
- 五、勞働管理方法ニ付テノ部門的研究
 - (イ) 思想、保安、取締方面ヨリ見タル勞働管理
 - 勞働管理ノ一部門トシテ主トシテ事業統制ヨリ來ル取締、保安方面ニ關スル事項ニ付テ述ブ
 - 例 (一) 懲罰制度、不良者ノ排除、其他工場鑛山ノ自衛問題ニ付テ (二) 風紀、衛生問題 (三) 思想問題 (四) 其他
 - (ロ) 勞働條件、其他一般待遇ニ關スル方面ヨリ見タル管理。一般勞働條件ニ關スル具體的問題ニ付テ説明ス
 - 例 (一) 賃金其他ノ諸給與問題ニ付テ (二) 所謂協調機關ニ付テ (三) 勞働組合運動ニ付テ (四) 勞働時間其他直接勞働條件ニ付テ (五) 勞働管理ト統計 (六) 其他
 - (ハ) 福利救養方面ヨリ見タル管理
 - 福利事業ニ付テ系統的ニ比較的詳シク説明ヲ爲ス
 - (一) 福利事業發展ノ沿革ト現勢 (二) 福利事業ノ目的及其分類 (三) 福利施設ニ對スル一般ノ考察
 - 例 1. 物の給與ト福利設備トノ關係 2. 福利施設ノ限度 3. 福利施設ト従業員ノ心理 4. 其他
 - (四) 勞働者救養ノ諸問題
 - 1. 救養ノ目的 2. 救養ノ方法 3. 救養ニ付テ注意スベキ事項一般 4. 其他
- 六、總括的意見
 - 勞働者教育ノ實際
 - 一、現今工場、鑛山ニ於ケル勞働者ノ生活
 - 二、現代要求セラル、勞働者ノ資格
 - 三、勞働者教育ノ目標
 - 勞働管理ト勞働者教育
 - 一、福利施設ト勞働者教育
 - 二、福利施設ト勞働者教育
 - 六、勞働者教育ノ實際

福利問題

中野誠

- 一、福利ノ意義
 - 甲、業務上ノ福利(作業上ノ福利) 保安—能率—考案發明
 - 乙、業務外ノ福利(福利施設) 教育、體育施設—保健、衛生施設—經濟施設—慰安、趣味、娛樂施設—其他ノ諸施設
- 二、標準
 - 一、能率 能率トイフ言葉—安易ニ使ハレル—費ヤストコロ少ク得ルトコロ多ク—比較スルニハ
 - 二、標準 標準ニニツ—理想條件下ノ能率—普通條件下ノ能率
 - 三、標準ノ維持ト能率ノ審査 本立而道生—標準ハ不易不變カ—一日三省—何ヲカ標準化スル—工業ノ三要素
 - 四、能率増進ト無駄排除 平タク云ヘバプラスノ無駄、マイナスノ無駄—合理化—工業上ノ無駄—非消極的—非不況対策
 - 五、時間研究 テーラー—ストップウォッチ法—秒時計ハ必須カ—マツ手近キトコロカラ
 - 六、賃銀制度 正確ニシテ合理的ナ資料—切下不可ハ鐵則カ—ハルセイ式ローワン式—利益分配
 - 七、動作研究 ギルブレス—輪道寫眞—動作模型—身邊注視—熊掌ヲステ、—運搬研究—作業ハ運搬—運搬費ノ遞減流レ作業—コンペヤナクトモ
 - 八、疲勞研究 産業疲勞—醫學的、生理學的—心理學的—瓦斯交換—學問的ナツシテ餘リニ學問的ナ—生産曲線—短周期、月、年—災害曲線
 - 九、適性考査 メンタルテスト—興味本位ヲ排ス—職業心理學—不具者一〇、〇〇〇—互換使役—住ミツキタキ自然ノコ、ロースマバ都
 - 一〇、配 法

- 一〇、アメリカノ無關心—漢字、假名、數字、英字—記號ハ約束—習ハウヨリ馴レヨ—日本標準規格
- 一一、機械—化
- 近代工業ノ特色—人モ増シ機械モ増ス—新式機械—能率の機械—手近カナ改良—單位當生産
- 一二、組織
- 直線式—機能式—釣糸型、投網型—特設機關—會議—委員會
- 一三、八幡製鐵所ノ實例
- 一四、能率増進ノ目的
- 良ク安ク早ク—原價計算—科學的管理法—産業ノ合理化—テ—ラーノ言葉
- 中 田 謙 師
- 一、現代人ノ生活ト趣味娛樂ノ重要性
- 1. 國民ノ傳統的生活ト趣味娛樂
- 2. 娛樂休養ノ意義
- 3. 娛樂休養ニ關スル要件
- 一、吾國ニ於ケル娛樂ノ推移ト現状
- 1. 農村娛樂ノ現状
- 2. 都會娛樂ノ現状
- 3. 現代ニ於ケル娛樂休養ノ傾向トソノ指導ニ就テ
- 一、歐米諸國ニ於ケル娛樂休養施設ノ進歩 伊太利 埃太利 獨逸 佛蘭西 亞米利加
- 河 原 謙 師
- 勞務者教育ノ意義
- 二、勞務者ノ意義及範圍
- 三、勞務者教育ノ沿革
- 四、勞務者教育ノ內容
- 勞務者教育ノ方法
- 六、勞務者教育ノ現況
- 七、非常時ト勞務者教育

(金澤市)

一、期 日 自二月十九日(火) 至同二十三日(土) 五日間
 一、會 場 金澤市兼六園内 兼六會館

- 一、講師並講義題目
- 勞務者教育問題 文部省社會教育官 森 明 磨
 - 勞務管理ト勞務者教育 慶應義塾大學講師 神 田 孝 一
 - 産業 平和論 日本勞務者教育協會 常 議 員 氏 家 貞 一 郎
 - 保 健 衞 生 金澤醫科大學教授 古 屋 芳 雄
 - 慰 安 娛 樂 文部省社會教育官 中 田 俊 造

月日曜	時	開會式	講 師
二月九日(火)	午前九時—十二時	古 屋 講 師	古 屋 講 師
二十日(水)		神 田 講 師	神 田 講 師
二十一日(木)		中 田 講 師	中 田 講 師
二十二日(金)		氏 家 講 師	氏 家 講 師
二十三日(土)		森 講 師	懇 談 會

講義要項
 勞務管理ト勞務者教育

神 田 謙 師

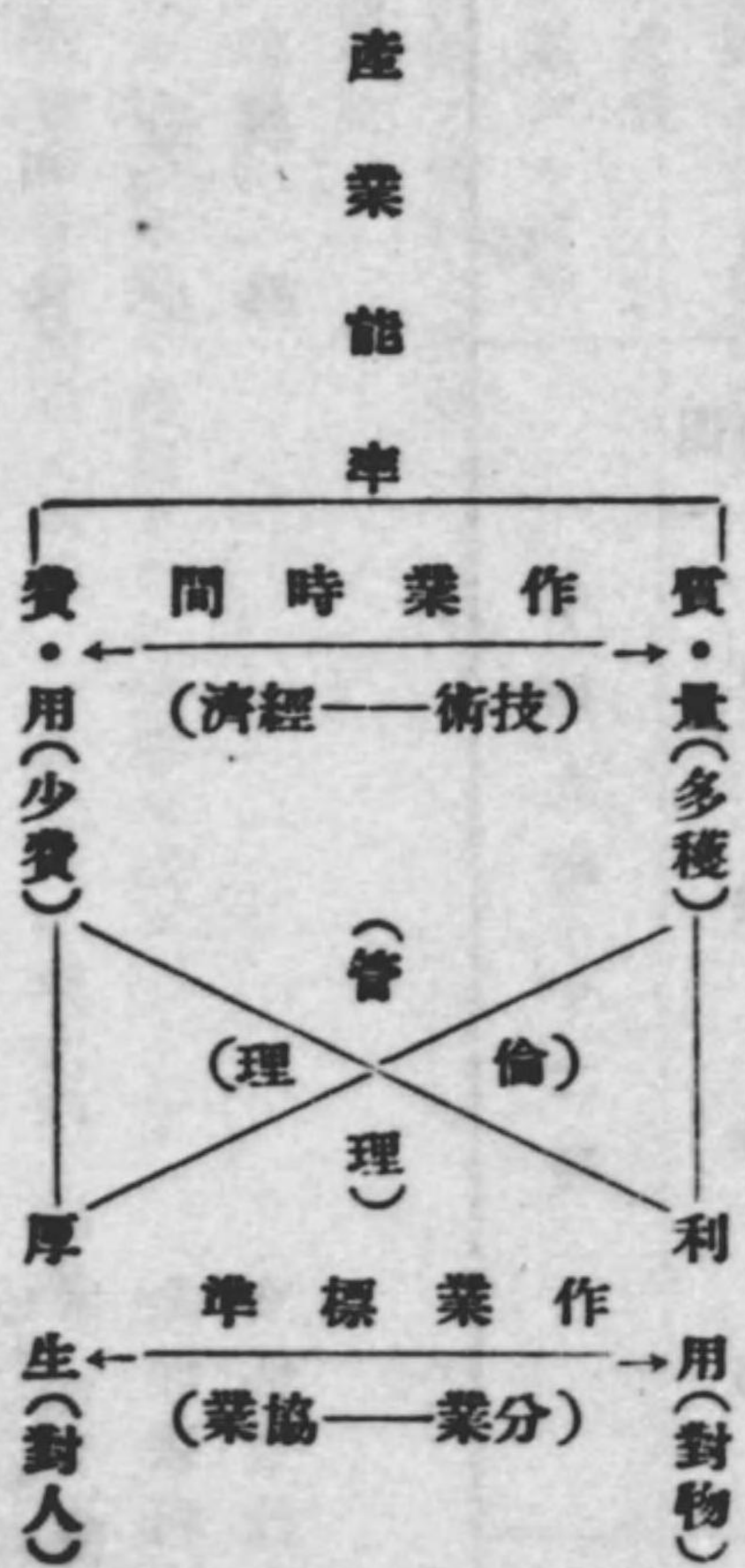
第一講 勞務管理

- (一) 勞務トハ近世産業ニ於ケル協働生産ヲ執行スル作業デアル
- (二) 管理トハ協働生産ノ執行ニ當リ、其ノ産業機能生産力ト生活力ヲ高ムルタメノ倫理的技術經濟手段デアル
- (三) 勞務管理ハ今日ノ工業業デハ勞務管理者(職長並職員)ガ擔當セネバナラナイ最重要ノ職務デアリ、使命デアル

- 第一、協働生産トハ何カ
- (一) 近世産業ト協働生産 (二) 分業ト協業ノ發達 (三) 動力掛機械ノ使用 (四) 工程管理ノ切要

- 第二、勞務管理トハ何カ
- (一) 協働生産ト機能管理 (二) 準備整頓(恒常律) (三) 均衡聯絡(均衡律) (四) 協和統制(發展律) (五) 管理ト倫理

- 第三、産業能率トハ何カ
- (一) 作業時間 (二) 作業標準 (三) 生産ノ質量ト費用 (四) 管理ト能率



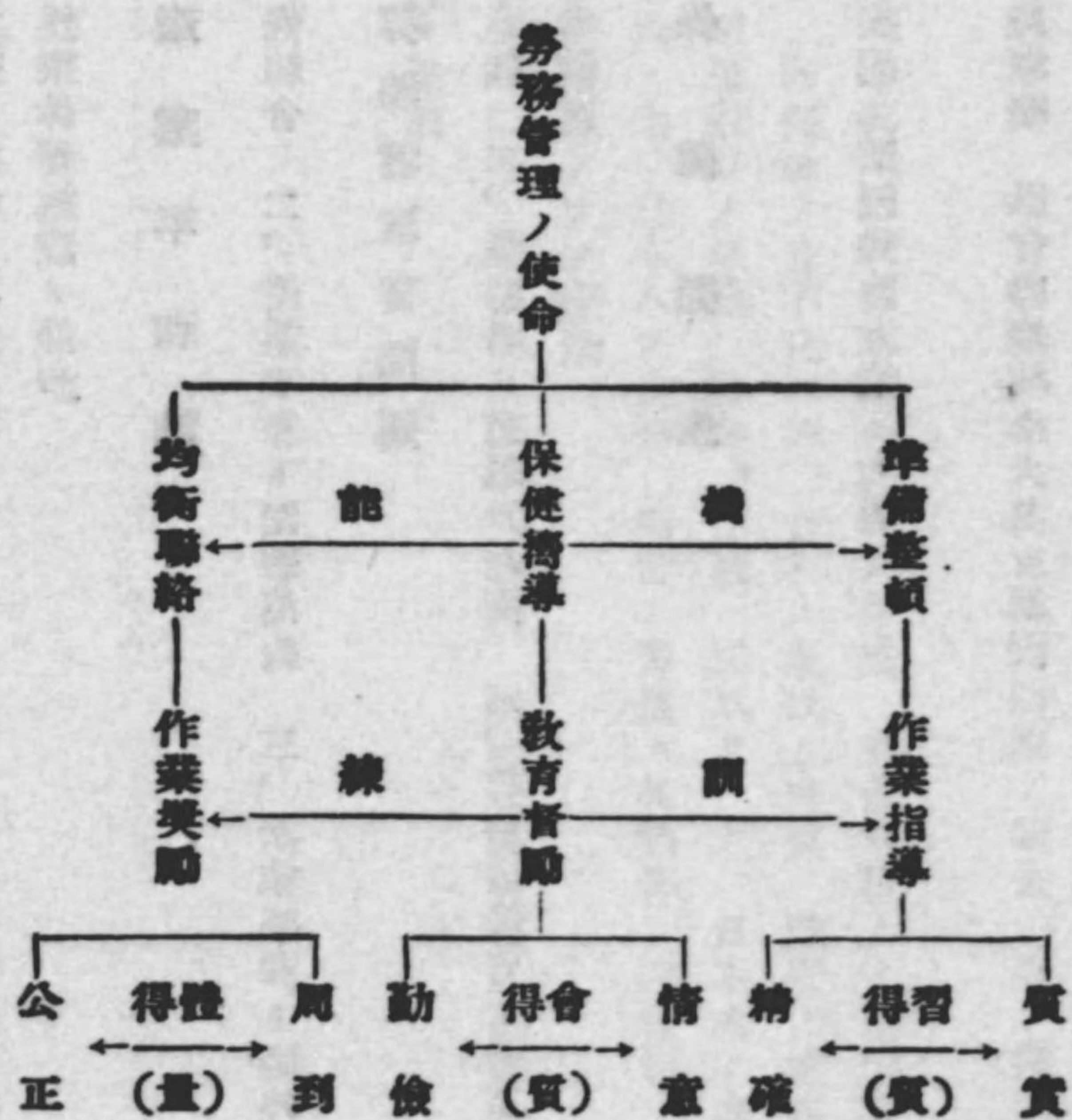
第二講 勞務者教育

- (一) 近世産業ノ勞務者ハ協働生産ヲ執行スル産業人デアアル、ケレドモ亦勞務給料ノ所得者トシテハ社會人デアアル
 - (二) 勞務者教育ハ産業人トシテノ教育デアアルト共ニ、社會人即チ國民トシテノ教育デアアル
 - (三) 『孟子』告子下八章ニハ「民ヲ教ヘズシテ之ヲ用ユルハ、ワザハヒスト云フ」トアル如ク、近世産業ノ勞務管理ハ是非トモ勞務者教育即チ機能(生産力ト生活力トノ結合)教育ノ土臺ノ上ニ築キ上ゲラレネバナラヌ
- 第一、機能教育トハ何カ

- (一) 機能教育ノ内容 (保健・意志・情操・精神・思想ノ教育) (二) 産業意識ノ育成 (三) 厚生利用ノ倫理

- 第二、機能訓練トハ何カ
- (一) 機能訓練ノ内容(保健・意志・情操・精神・思想ノ訓練) (二) 産業機能ノ暢達 (三) 技術經濟ノ倫理

第三、勞務管理ノ使命ハ何故ニ重キカ
 勞務管理ノ使命ヲ特徴付クルモノハ、個々ノ勞務者カラハ其ノ執行スル勞務ノ技術管理デアルケレドモ、其ノ産業カラハ協働生産ヲ執行スル作業ノ經濟管理デナケレバナラナイ。更ラニ今日ノ産業ニ於テハ勞務者ノ産業意識「ココロザシ」ノ育成ヲ基調トスル産業機能ノ暢達(倫理的厚生利用手段)デナケレバナラヌ



中田 謙 編

中田 謙 師

- 一、現代生活ト娯樂休養施設ノ重要
- 二、娯樂休養ノ意義ト要件

三、娛樂休養ノ諸方面

- イ、組織的活動Ⅱ俱樂部、各種團體ノ施設、官廳ノ施設
- ロ、非組織的活動Ⅱ家庭及庭園ニ於テ行ハル、活動、戶外遊戲、營利的娛樂
- 一、我國ニ於ケル娛樂ノ推移ト現狀
- 一、歐米ニ於ケル娛樂休養施設ノ進歩

産業平和論

氏 家 謙 師

- 一、産業平和ト労働組合
- 二、産業平和ト團體協約
- 三、産業平和ト調停制度
- 四、産業平和ト労働立法
- 五、産業平和ト労働管理

労働者教育問題

森 謙 師

- 一、労働者教育ノ意義
- 二、労働者ノ意義及範圍
- 三、労働者教育ノ沿革
- 四、労働者教育ノ内容
- 五、労働者教育ノ現況
- 六、非常時ト労働者教育

保健衛生

古 屋 謙 師

社會的疾患

意義 社會的疾患 原因豫防方策ノ大要

性病

意義 傳染経路概略 社會的疾患トナリシ原因

性病ノ身體及ヒ子孫ニ及ボス影響

淋疾 感染 症狀ノ概略 身體ニ及ボス影響

痘 毒

感染 痘毒ノ胎兒ニ及ボス影響 身體ニ及ボス影響

飲(性)下痢

性病ノ感染 性病ノ豫防方法 消極的方法 積極的方法

傳染病

傳染ノ意義 傳染経路 一、接觸傳染、 二、空氣傳染 三、水ニ因ル傳染 四、食物ニ因ル傳染 五、昆蟲ノ媒介ニ因ル傳染 六、創傷ニ因ル傳染

病原體ノ侵入門戸

一、皮膚(表皮)ニ、粘膜 一般傳染病 法定傳染病

最近ノ死因統計ニ表ハレタル病名別、職業別

地方別、特色

傳染病豫防

(一)國家社會的方法 一、病毒ノ輸入防止ニ、病原ノ除去 三、傳染経路ノ杜絶 (二)個人的豫防方法

關聯醫學ノ危險

- 一、日本精神ノ定義 二、日本精神發揚ノ方法 道德風教上ノ「固有性」ノ自覺 肉體素質上ノ「固有性」ノ自覺 三、輸入醫學再吟味ノ要
- 生活ノ日本化 保健法ノ日本化 四、日本ノ氣候ノ特質 溫度、寒暖計ノ錯覺 比濕ト體溫排泄ノ關係 五、日本ノ住宅 近代建築ノ錯誤
- ト洋風生活 家屋設計ノ注意 防暑、防寒 間取り 六、日本人ノ衣服 洋服ト日本服ノ利害 夏季ノ衣服 日本服ノ改良 靴ノ改良 婦人ノ服裝ノ改良 七、日本人ノ食物 肉食ノ習慣ト其弊害 肉食病 米ト野菜

社會的疾患トシテノ結核トソノ療法

結核ト日本人ノ死亡率 結核病ノ真相 病因 療養ノ大方針 精神安靜 肉體安靜 日光療法 空氣療法 寒氣療法 食事ノ注意 家屋ト結核 母性愛ト結核

四、勞務者教育協議會

昭和九年度勞務者教育協議會實施概況

昭和九年度勞務者教育協議會實施概況

一、施設概覽

開設地	會場	期日	日数	時間数	出席者	見學箇所
仙臺市	齊藤報恩館	十月五日(金)	二	九	共	片倉製絲仙臺工場仙臺地方專賣局
新潟市	新潟縣廳	九月十一日(火)	一	六	七	見學ナシ
濱松市	濱松市公會堂	九月二十一日(金)	二	三	八	風害ノ爲見學セズ
廣島市	廣島縣教育會館	十一月十三日(火)	二	九	八	廣島地方專賣局
長崎市	長崎會館	十月二十一日(土)	二	九	二	三菱重工業株式會社社長崎造船所
鳥取市	鳥取縣立鳥取圖書館	昭和十年三月五日(火)	一	五	八	那是製絲株式會社鳥取工場
大津市	滋賀縣教育會館	三月七日(木)	一	六	二〇	見學セズ

二、出席者

一、關係各省並道府縣市勞務者教育主務當局者

- 一、官業並民業工場鑛山等ニ於ケル事業主又ハ勞務擔當者
- 一、其ノ他勞務者教育關係者

三、協議事項

- 一、勞務者教育ノ普及發達方策如何
- 一、現下ノ時局ニ鑑ミ勞務者教育實施上特ニ留意スベキ事項
- 一、勞務者教育指導者ノ養成ニ就テ
- 一、勞務者ニ對スル公民的教育ト職業的教育ニ就テ
- 一、勞務者ニ對スル保健、體育、趣味、娛樂施設ニ就テ
- 一、勞務者教育關係ノ各種團體ノ連絡提携ニ就テ
- 一、其ノ他出席者提出ノ協議事項ニ就テ
- 一、非常變災ニ處スベキ教育及訓練ニ就テ（以下鳥取縣提出）
- 一、復興精神ノ作興ニ就テ
- 一、勞務者ノ宗教教育ニ就テ（以下滋賀縣提出）
- 一、通勤男工ノ教育ニ就テ
- 一、女工ノ家政教育ニ就テ
- 一、勞務者教育研究會ヲ本縣ニ設置スル件

四、主要意見

各協議會に於ける出席者の主なる意見左の如し

- 一、勞務者教育の普及發達方策如何
 - 1 一府縣を單位として文部省主催の勞務者教育協議會を開催すること
 - 2 各府縣主要産業都市に毎年長期輔導學級を開設のこと
 - 3 主要工場には必ず勞務者教育主任を設置し工場補習學校、工場青年訓練所、工場男女青年團、在郷軍人會等の指導をなすこと
 - 4 各府縣に勞務者教育協會を組織せしめ國費を以て毎年助成すること
 - 5 最寄りの數工場聯合して共同の指導者を設置するも可ならむ
 - 6 一般企業者の自覺を促すこと、之が爲には先づ彼等をして今少し勞務管理に就て理解を深からしめ、然る後勞務者教育を叫べば更に徹底せん
- 二、現下の時局に鑑み勞務者教育實施上特に留意すべき事項
 - 1 非常時に對する正しき認識を得しむること
 - 2 國體觀念を啓培し國民的信念の陶冶に努むること
 - 3 人生觀勞働觀の確立を圖ること
 - 4 功利打算を排し道德經濟一圓融合の生活訓練に留意すること

- 5 煽動誘惑に撓ら確志冷靜能く衆を揮ふる中堅者の養成に励むること
- 6 宗教的信念を養ふこと
- 7 勞務者の人格を尊重し、自發的自覺を促すこと
- 8 幹部の卒先垂範
- 9 躍進日本の姿態を知らしむること
- 10 文部省に於て工場美談を蒐録し關係方面に頒布すること
- 11 優良勞務者の表彰、勞務者教育デー又は週間の催しの必要
- 12 文部省に於て標準的の教科書を編纂發行すること
- 13 文部省、府縣市又は工場に於て一定の教育を受けたる者に對しては一定の資格を與へ、或は採用の際に優先權を與ふること

三、勞務者教育指導者の養成に就て

- 1 文部省に於て養成機關を設置せられたること
- 2 各工場の教育主任又は寄宿舎監の講習會を開設すること
- 3 信仰信念の偏狭ならざるものを選ぶこと
- 4 各府縣に専任の指導官を置くこと

四、勞務者に對する公民的教育と職業的教育に就て

- 1 工場勞務者を最寄り學校に夜間又は適當なる時間に勉學せしむること
- 2 職業教育は工場の技師又は幹部其の任に當ること
- 3 工場内に掲示場を設け掲示教育をなすこと
- 4 工場圖書館を設置すること
- 5 講座、訓練所、修養團體を設置すること

五、勞務者に對する保健、體育、趣味、娛樂施設に就て

- 1 場内清潔保持
- 2 消毒徹底
- 3 採光通風の十分、塵芥騒音防止
- 4 栄養留意、睡眠、休養の十分
- 5 野球、庭球、弓道、劍道、ピンポン、登山、遠足、海水浴、陸上競技會等の獎勵
- 6 謠曲、生花、琴、作法、茶道等
- 7 一般的娛樂、殊に映畫觀覽に對する充分なる指導
- 8 府縣工場等に對し優良なるフィルムを無料貸與せられんこと

六、勞務者教育關係團體の連絡提携に就て

- 1 各府縣毎にて大聯合會を組織すること

- 2 更に各府縣の聯合會を以て日本勞務者教育協會の組織分子たらしむること
- 3 各工場は講習、講演會等の際は關係諸團體より講師を招聘し相互の聯携を圖ること
- 4 日本勞務者教育協會の印刷物を購讀せしむること
- 5 各工場は當該府縣社會教育課と密接なる關係を採ること

五、各工場は講習、講演會等の際は關係諸團體より講師を招聘し相互の聯携を圖ること

六、日本勞務者教育協會の印刷物を購讀せしむること

七、各工場は當該府縣社會教育課と密接なる關係を採ること

八、各工場は當該府縣社會教育課と密接なる關係を採ること

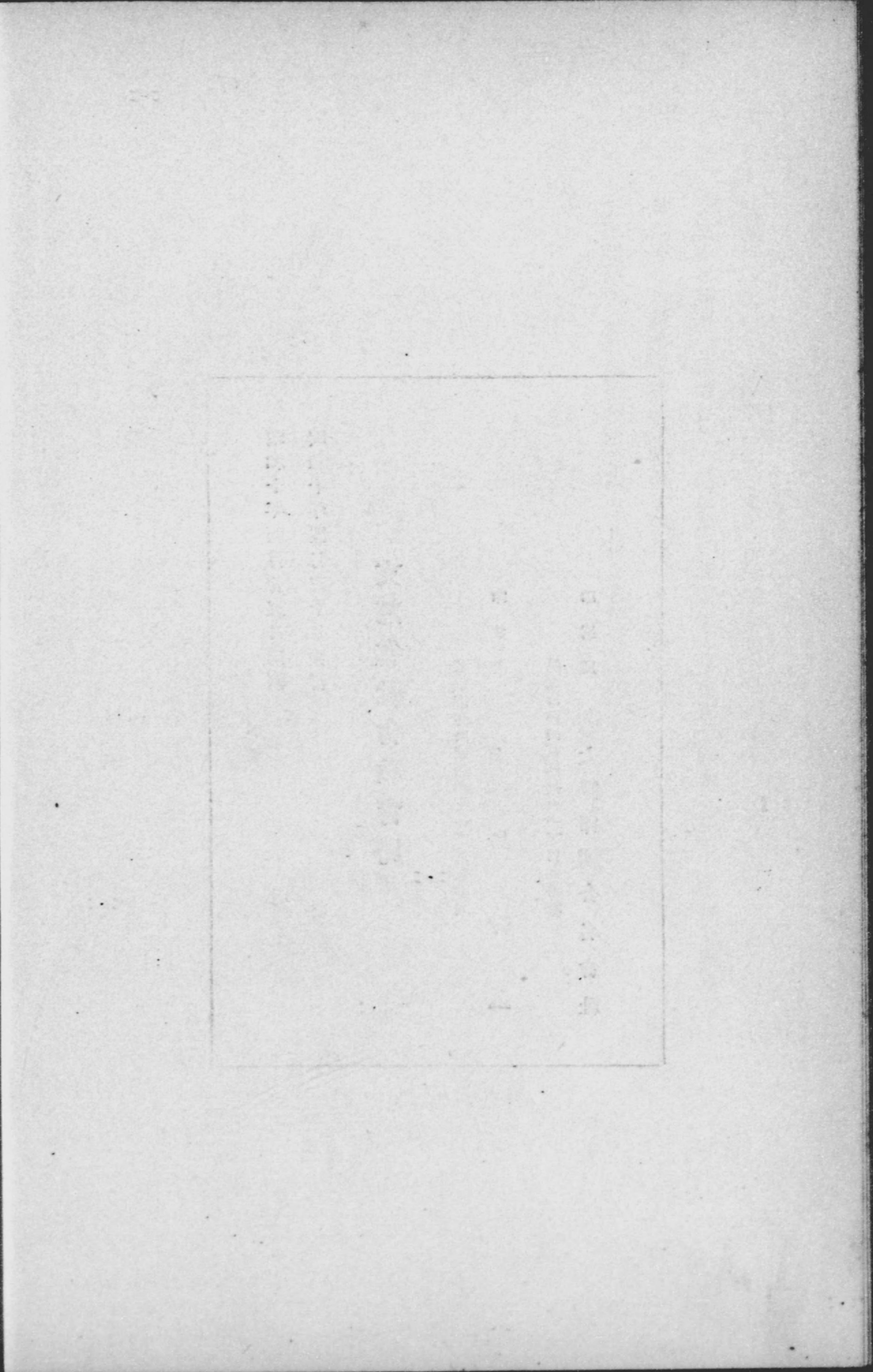
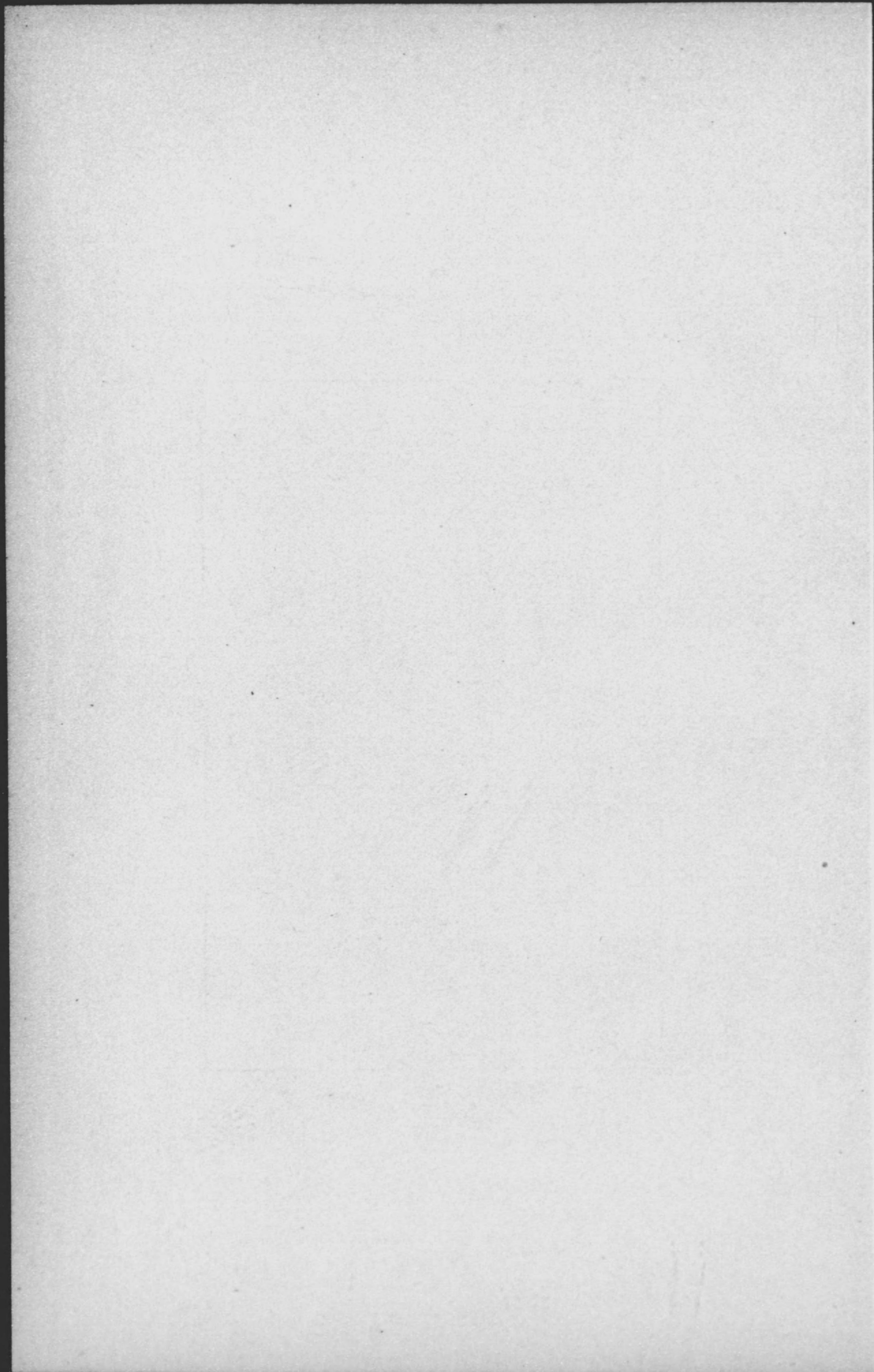
九、各工場は當該府縣社會教育課と密接なる關係を採ること

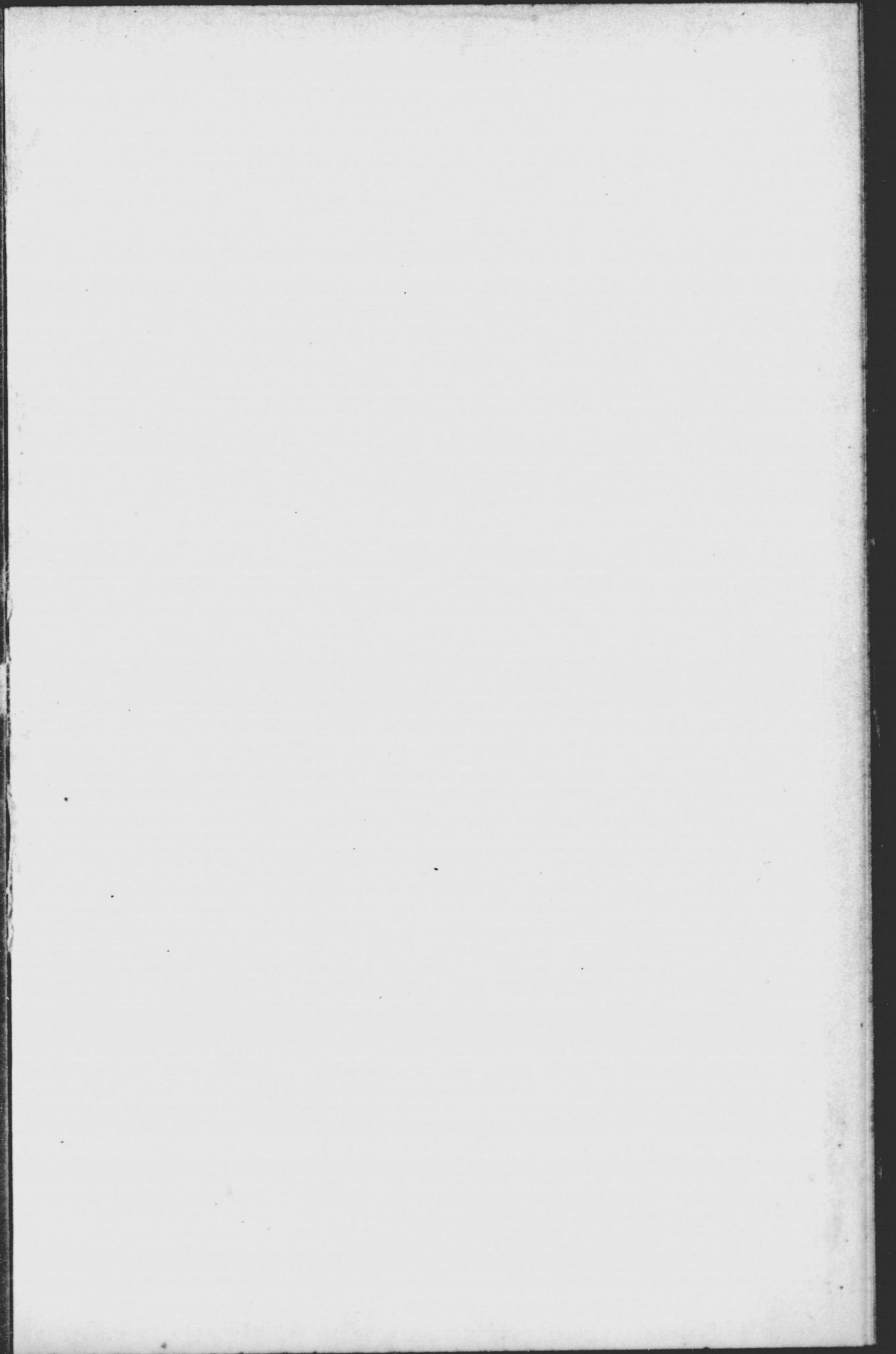
十、各工場は當該府縣社會教育課と密接なる關係を採ること

昭和十年四月廿五日印刷
 昭和十年四月三十日發行

文部省社會教育局

東京市神田區西神田一丁目九番地
 印刷者 大島秀一
 東京市神田區西神田一丁目九番地
 印刷所 太陽印刷合名會社





275
43

